



ユニプレス株式会社 2022年度決算報告

2023年5月19日 代表取締役 社長執行役員 浦西 信哉



UNIPRES CORPORATION



2022年度決算について

2023年度見通しについて

中期経営方針

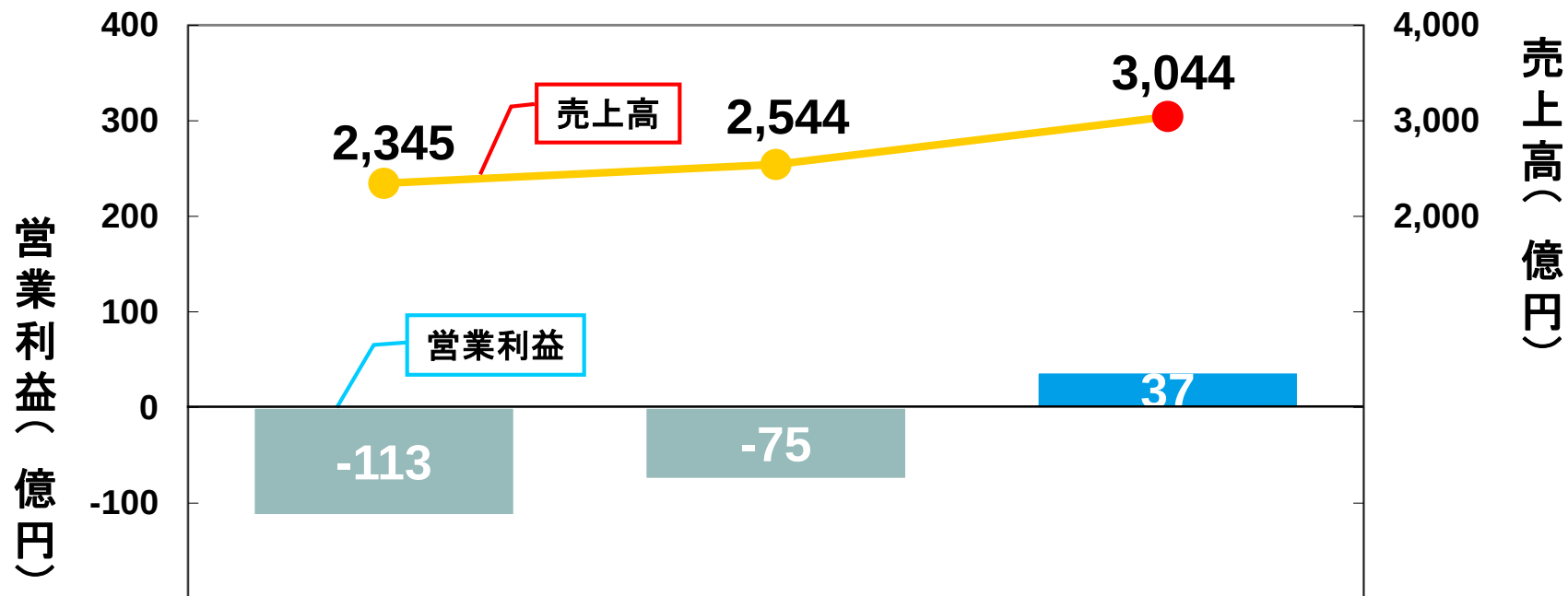


2022年度決算について

半導体の世界的な供給不足や一部地域における新型コロナウイルスの感染再拡大の影響はあったものの、為替換算影響等により、売上高は3,044億円と増収。
また、合理化効果等により、営業利益は37億円となり黒字に転換。

2022年度連結決算サマリー

- 売上高は、前年同期比500億円増収（19.6%増）
- 営業利益は、前年同期比112億円増益



	20年度	21年度(A)	22年度(B)	(B)-(A)
売上高	2,345	2,544	3,044	+500
営業利益	-113	-75	37	+112
経常利益	-91	-47	50	+97
親会社株主に帰属する当期純利益	-176	-79	24	+103

製品群別連結売上構成

(億円)

	2021年度		2022年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス製品	2,177	85.6%	2,650	87.0%	+473	+1.4%
トランスミッション製品	317	12.4%	322	10.6%	+5	-1.8%
樹脂製品	31	1.2%	39	1.3%	+8	+0.1%
その他	19	0.8%	33	1.1%	+14	+0.3%
合計	2,544	100%	3,044	100%	+500	—

得意先別連結売上構成(日産自動車関連)

- 東風汽車向け売上の減少等により、構成比4.3%減少

(億円)

	2021年度		2022年度		構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連 小計	2,006	78.9%	2,272	74.6%	-4.3%
東風汽車	558	21.9%	493	16.2%	-5.7%
日産自動車	307	12.1%	479	15.7%	+3.6%
北米日産	319	12.5%	422	13.9%	+1.4%
欧州日産自動車	190	7.5%	265	8.7%	+1.2%
メキシコ日産自動車	227	8.9%	210	6.9%	-2.0%
ジャトコ(海外拠点含む)	209	8.2%	192	6.3%	-1.9%
日産車体	75	2.9%	111	3.6%	+0.7%
マレリ(海外拠点含む)	37	1.5%	44	1.4%	-0.1%
ルノー日産インドア/インド日産	25	1.0%	30	1.0%	0.0%
タイ日産自動車	41	1.6%	20	0.7%	-0.9%
鄭州日産	2	0.1%	2	0.1%	0.0%

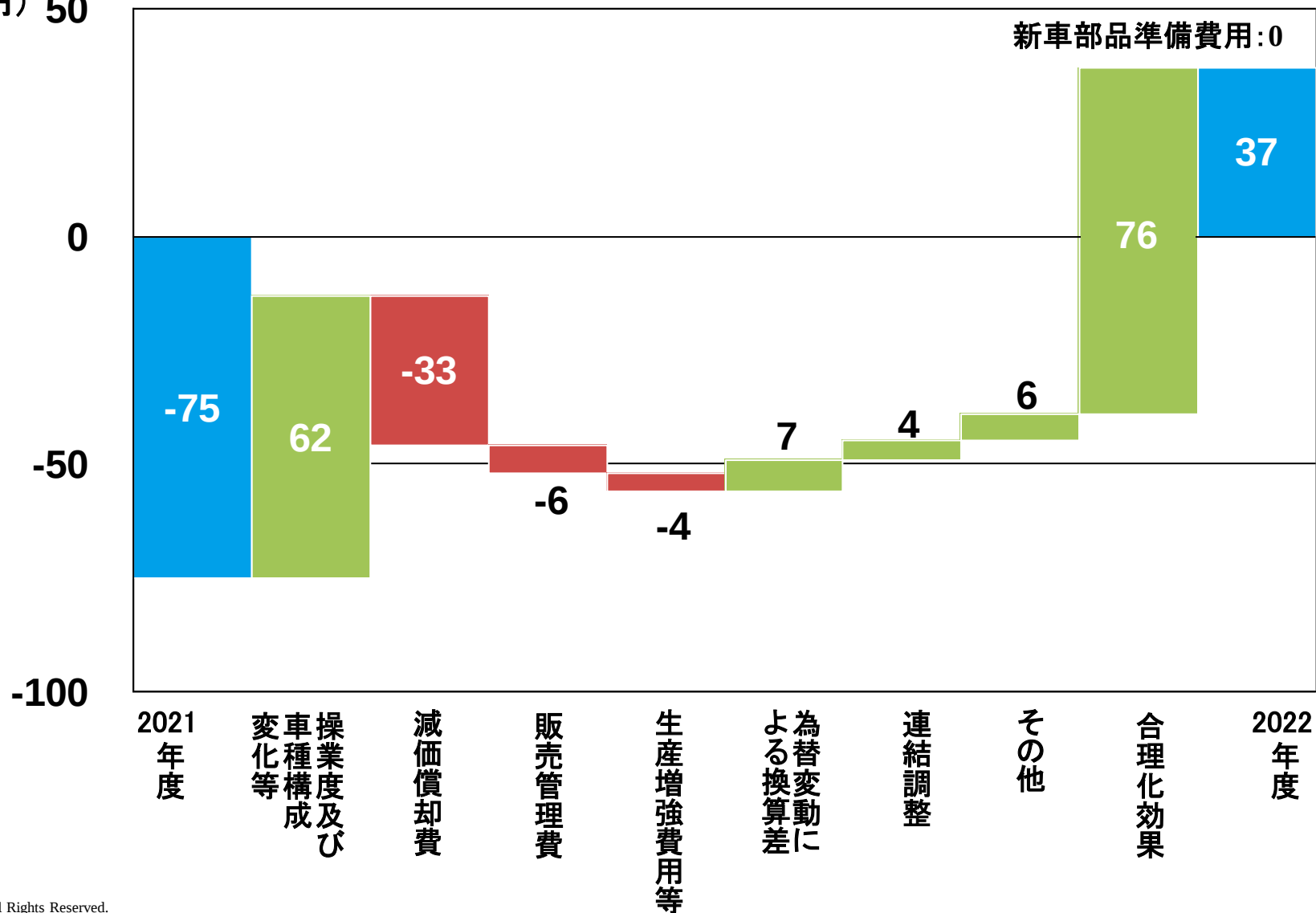
得意先別連結売上構成(日産自動車関連以外)

- 米国ホンダおよびルノー向け売上の増加等により、構成比は4.3%増加 (億円)

			2021年度		2022年度		構成比 増減
			売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連以外の得意先 小計			538	21.1%	772	25.4%	+4.3%
内)ホンダ	米国ホンダ		46.8	1.8%	107.4	3.5%	+1.7%
	メキシコホンダ		23.7	0.9%	49.1	1.6%	+0.7%
	本田技研工業		22.7	0.9%	26.4	0.9%	0.0%
	インドネシアホンダ		14.7	0.6%	16.8	0.6%	0.0%
	英国ホンダ		20.3	0.8%	-	-	-0.8%
ルノー	ルノー		25.5	1.0%	95.6	3.1%	+2.1%
	ルノー日産インドア		12.5	0.5%	25.3	0.8%	+0.3%
三菱自動車工業(海外拠点含む)			81.6	3.2%	120.6	4.0%	+0.8%
PSA			43.9	1.7%	61.1	2.0%	+0.3%
マツダ	マツダ		17.9	0.7%	25.6	0.8%	+0.1%
	メキシコマツダ		6.1	0.2%	9.1	0.3%	+0.1%
ジャトコ(日産以外)(海外拠点含む)			33.7	1.3%	31.0	1.0%	-0.3%
アイシン(海外拠点含む)			29.4	1.2%	30.7	1.0%	-0.2%
ダイナックス(海外拠点含む)			17.7	0.7%	17.8	0.6%	-0.1%
SUBARU			8.9	0.3%	11.7	0.4%	+0.1%
スズキ(海外拠点含む)			3.6	0.1%	5.5	0.2%	+0.1%
NSKワーナー			4.2	0.2%	4.1	0.1%	-0.1%
日野自動車(海外拠点含む)			1.6	0.1%	3.4	0.1%	0.0%
UDトラックス			2.3	0.1%	2.4	0.1%	0.0%
いすゞ自動車(海外拠点含む)			2.4	0.1%	2.3	0.1%	0.0%
武蔵精密工業			2.1	0.1%	2.2	0.1%	0.0%
豊田鉄工(海外拠点含む)			1.0	0.02%	1.9	0.1%	+0.08%
ダイハツ工業			2.2	0.1%	0.0	0.0%	-0.1%

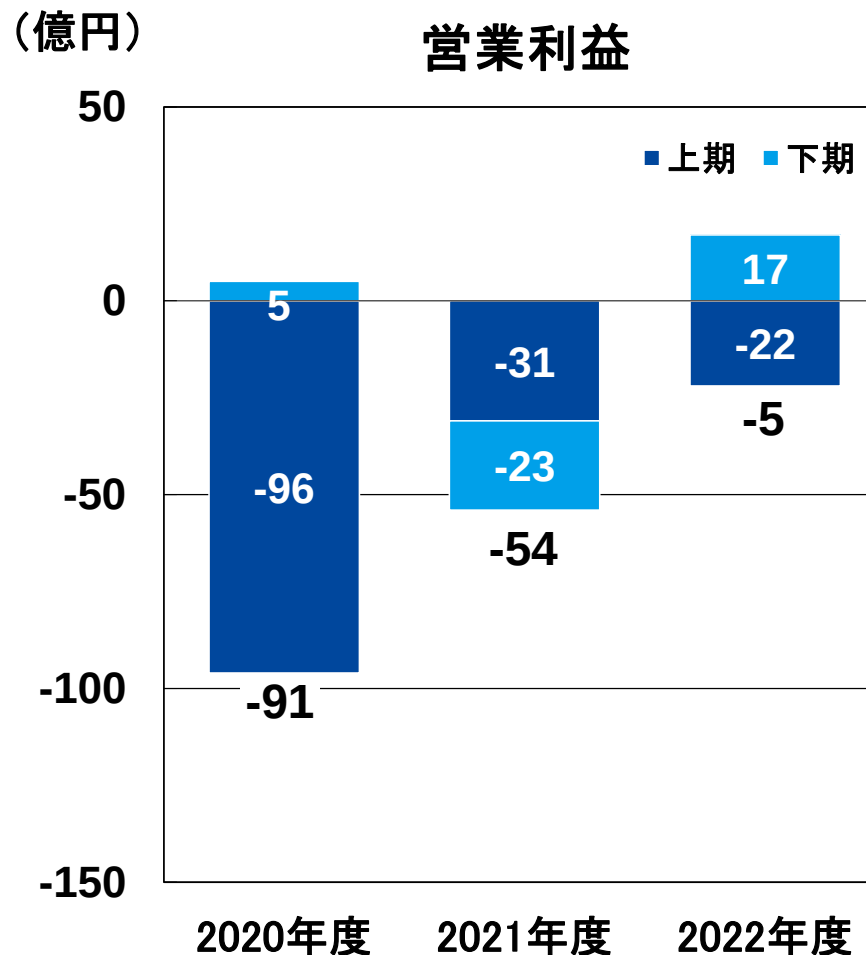
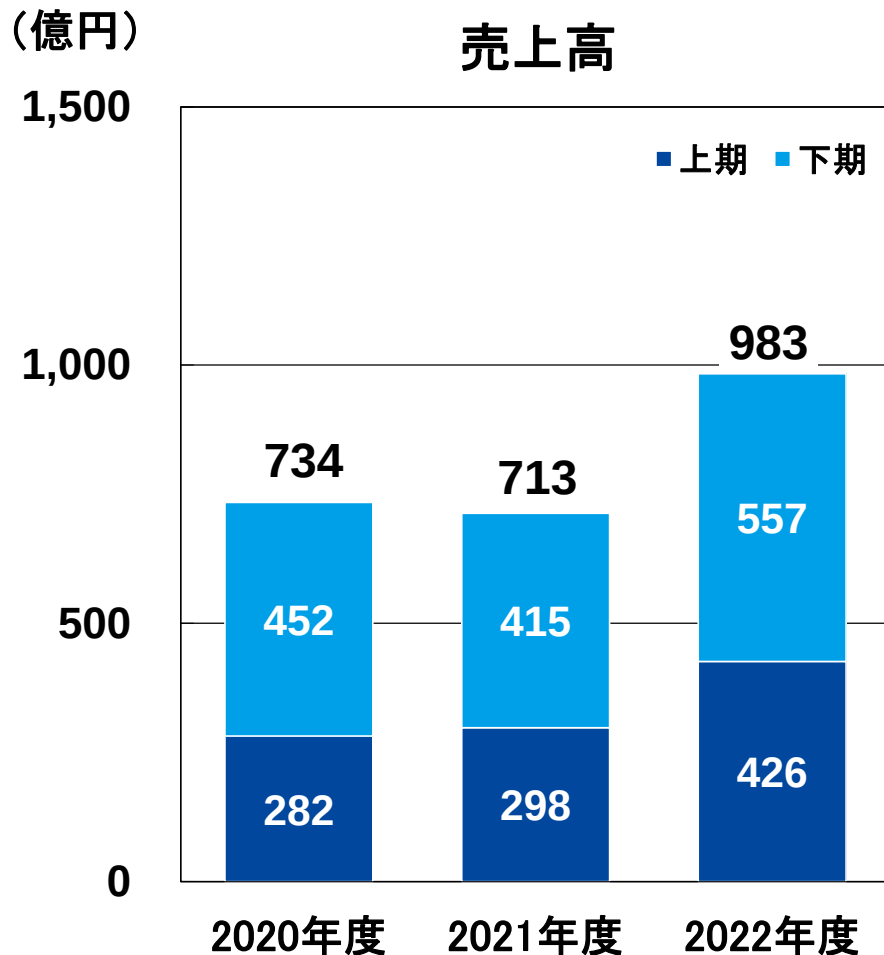
営業利益の増減要因

(億円) 50



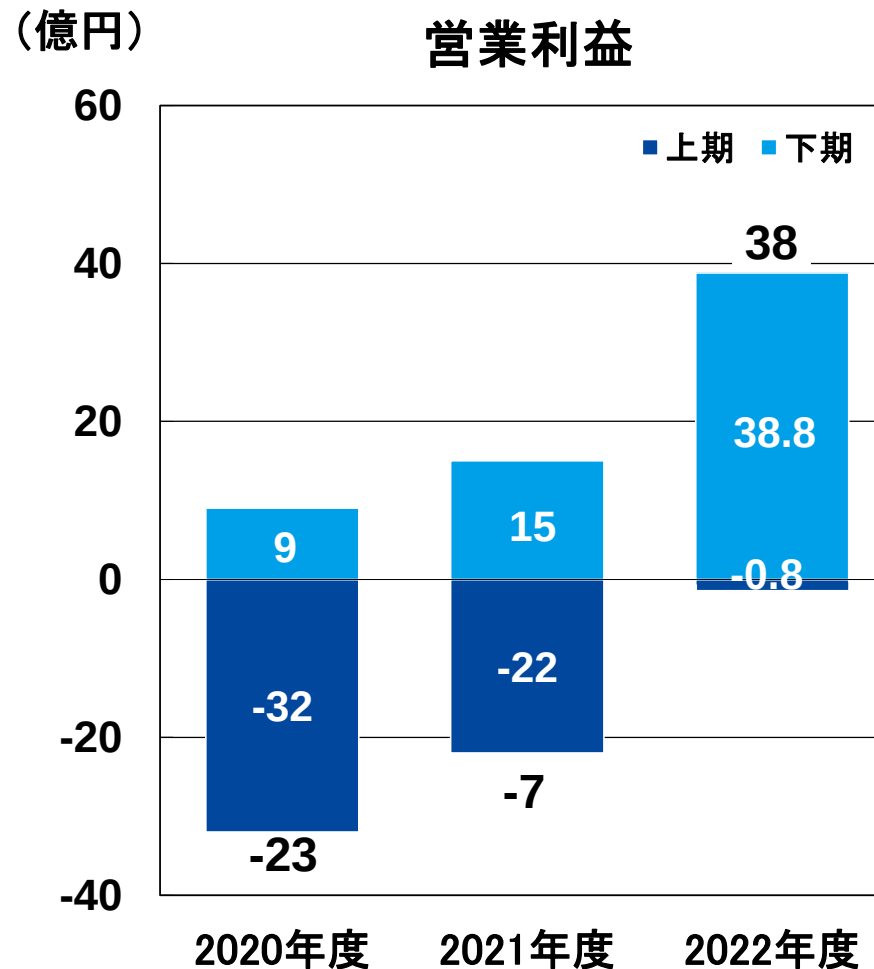
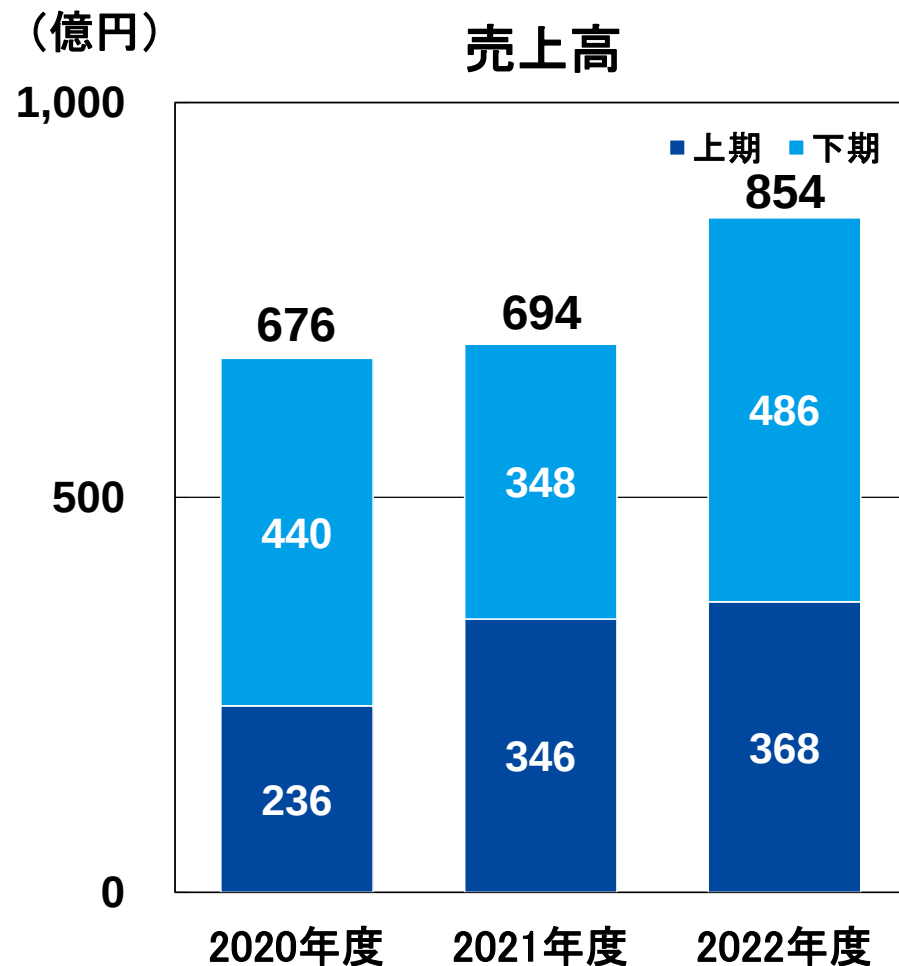
地域別売上高・営業利益(日本)

- 売上高は、得意先の増産影響等により、37.8%増収
- 営業利益は、新車部品立上げ準備費用等の負担があったものの、売上増の影響および合理化効果等により、49億円の改善



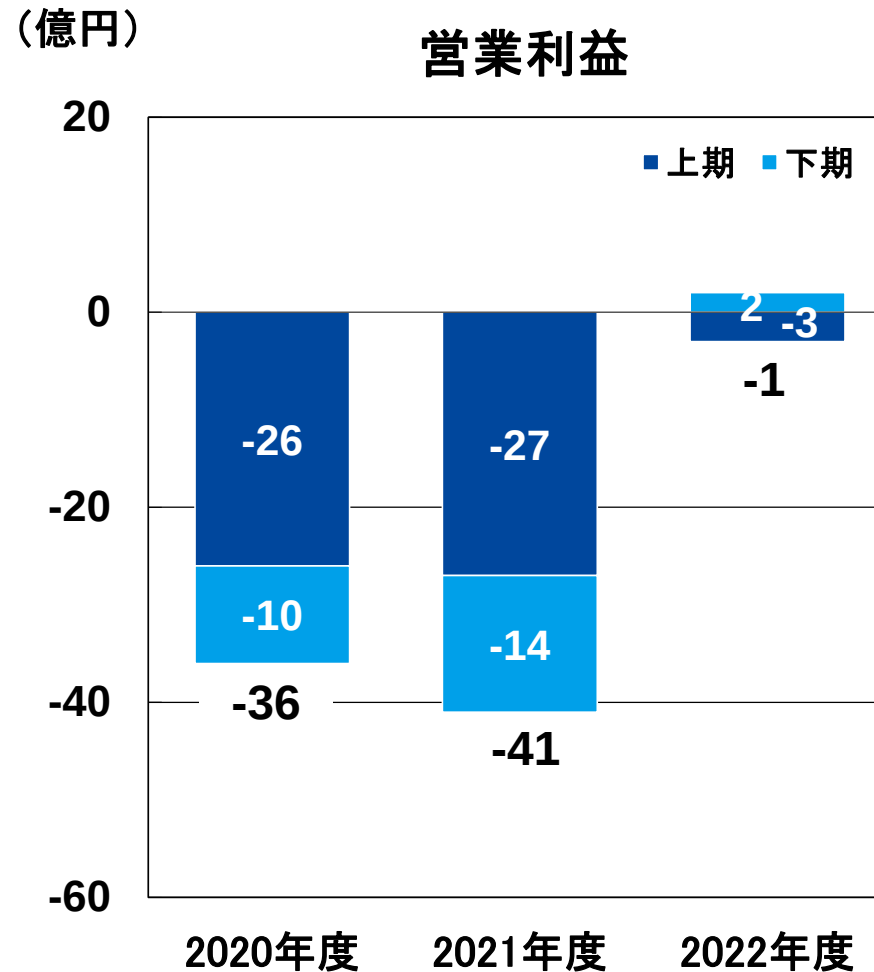
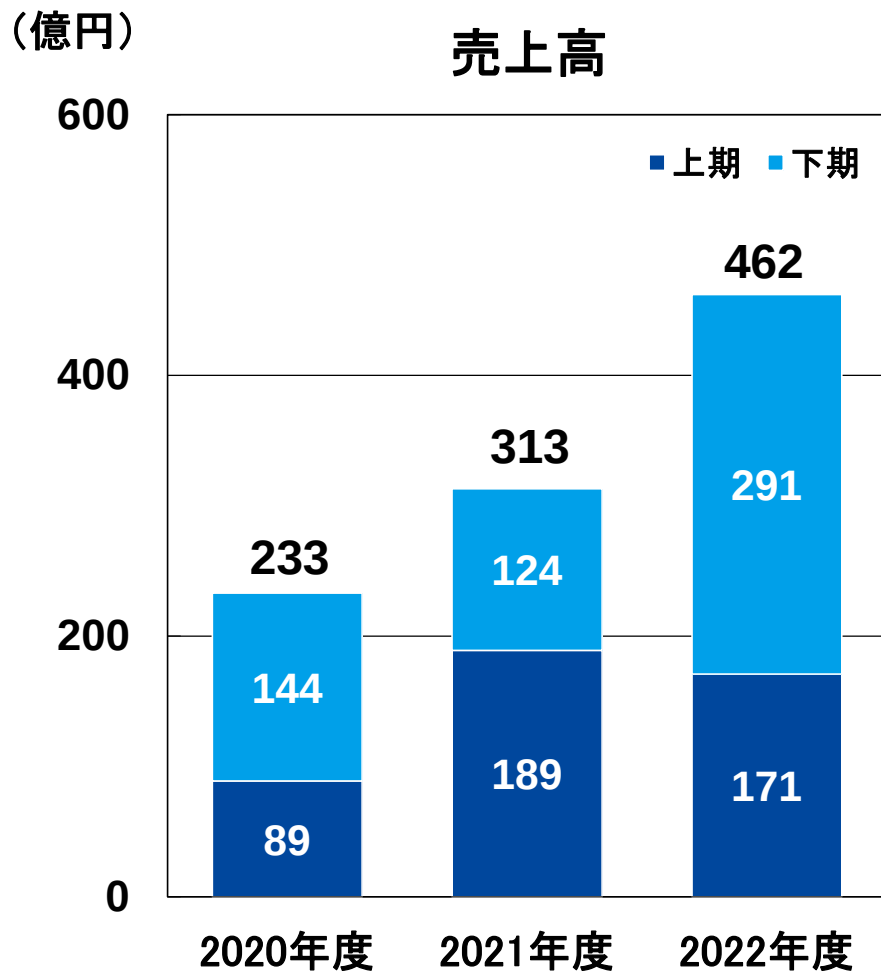
地域別売上高・営業利益(米州)

- 売上高は、為替換算影響等により、23.0%増収
- 営業利益は、合理化効果等により、45億円の改善



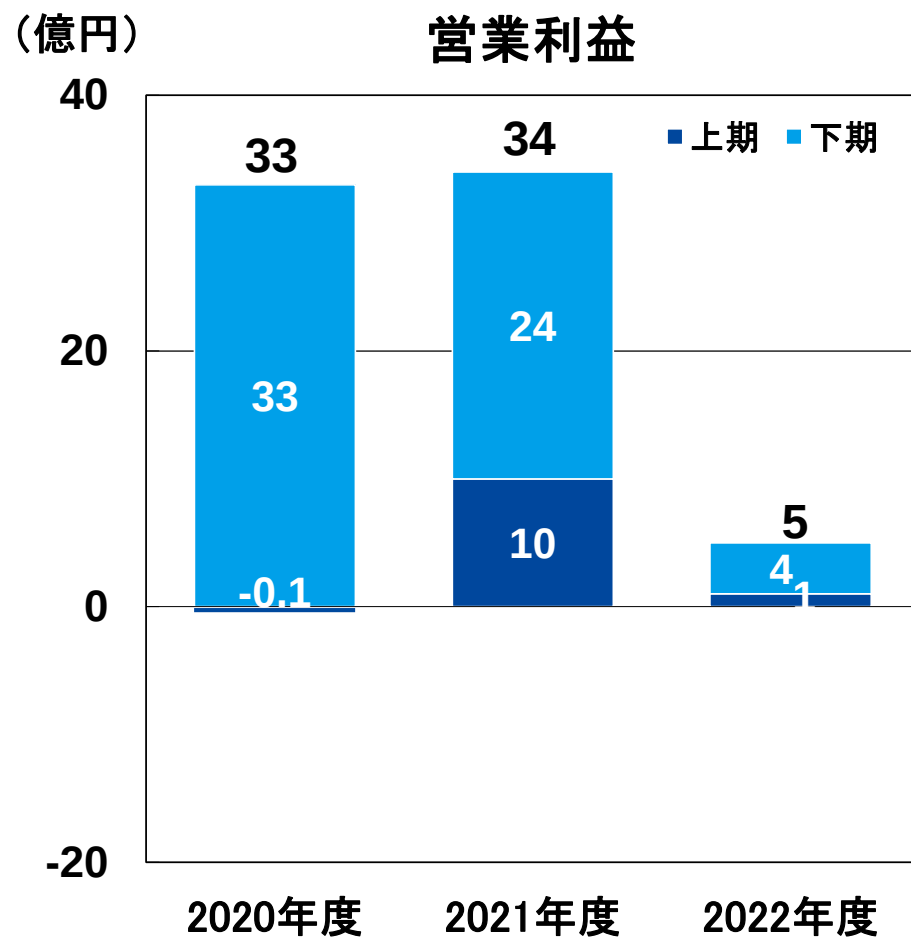
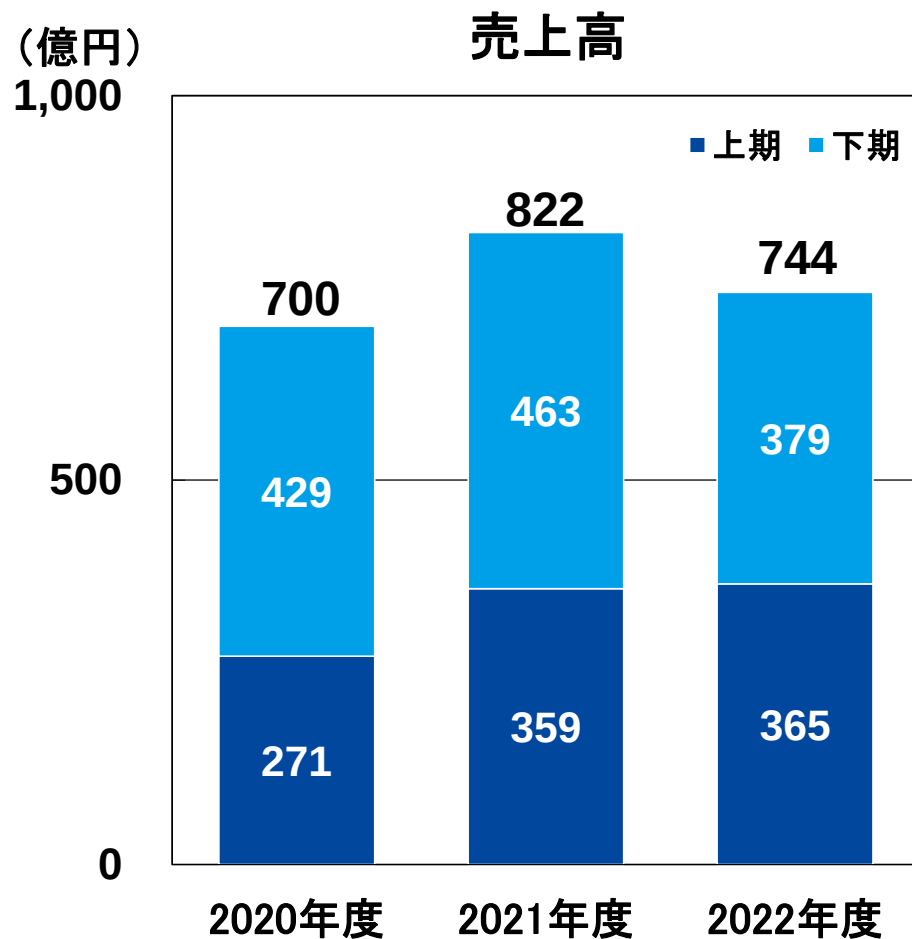
地域別売上高・営業利益(欧州)

- 売上高は、得意先の増産影響および為替換算影響等により、47.6%増収
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、40億円の改善

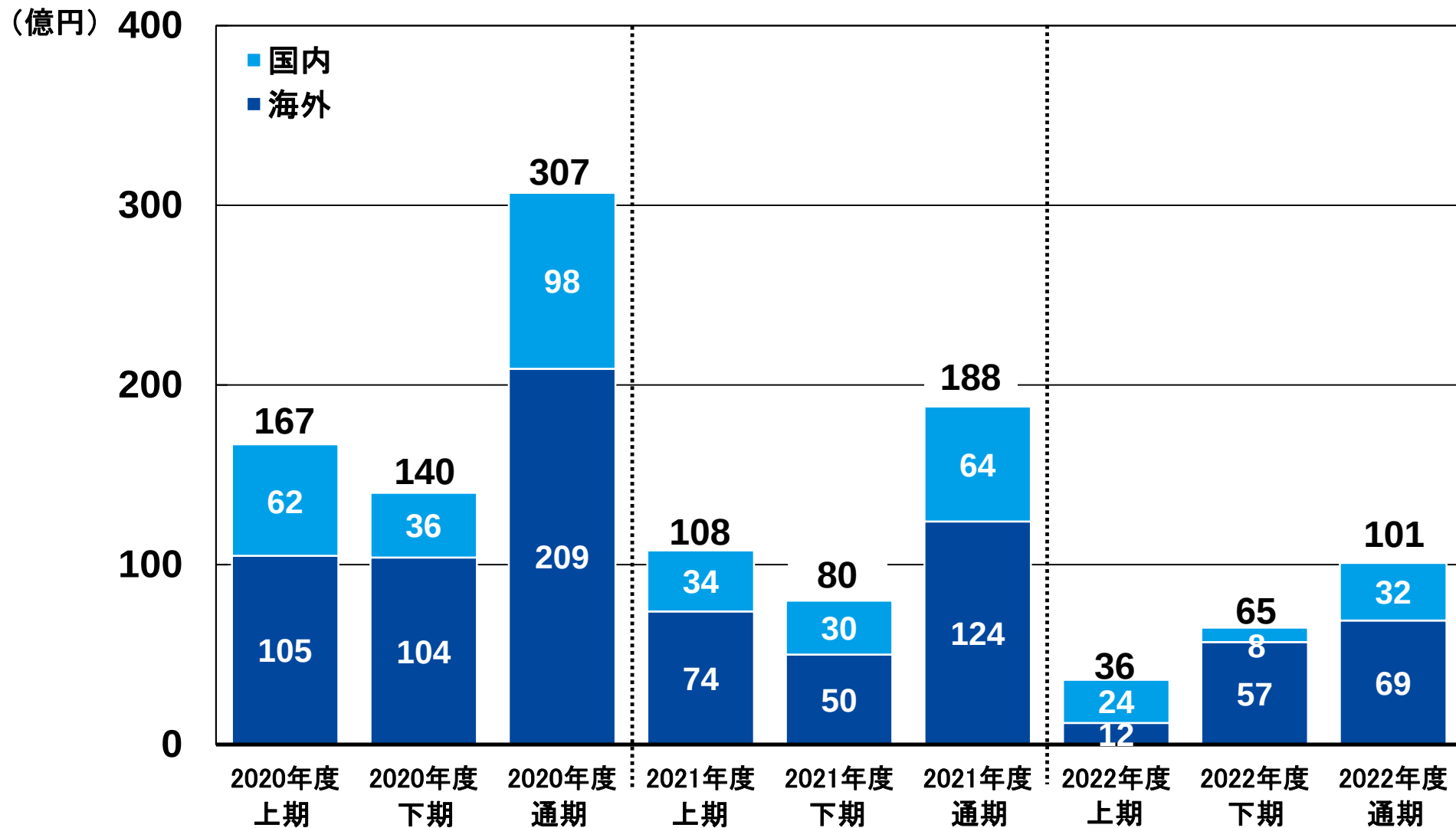


地域別売上高・営業利益(アジア)

- 売上高は、為替換算影響はあったものの、中国地域における新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う得意先の減産影響等により、9.4%減収
- 営業利益は、操業度影響等により、29億円の減益

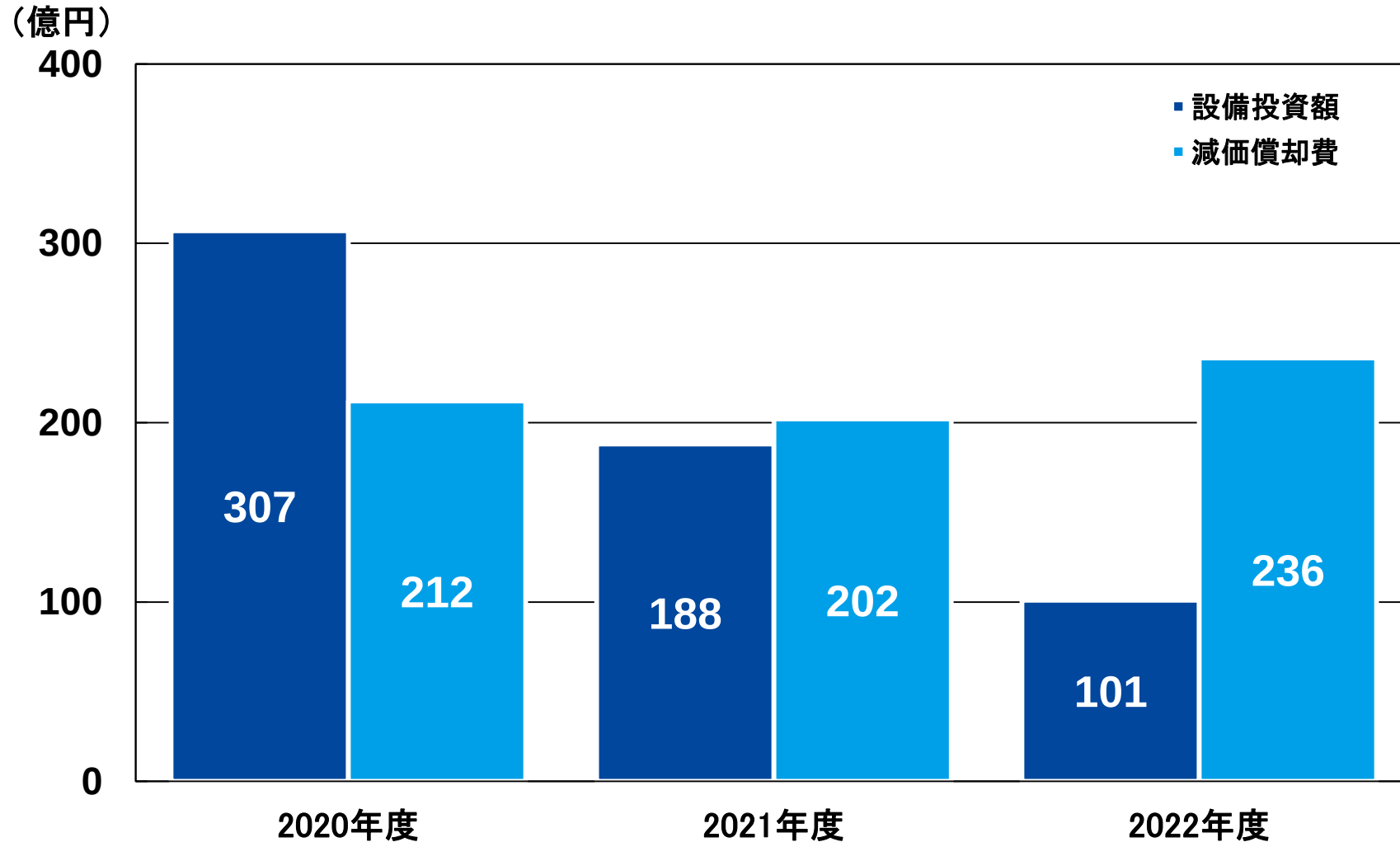


設備投資額推移



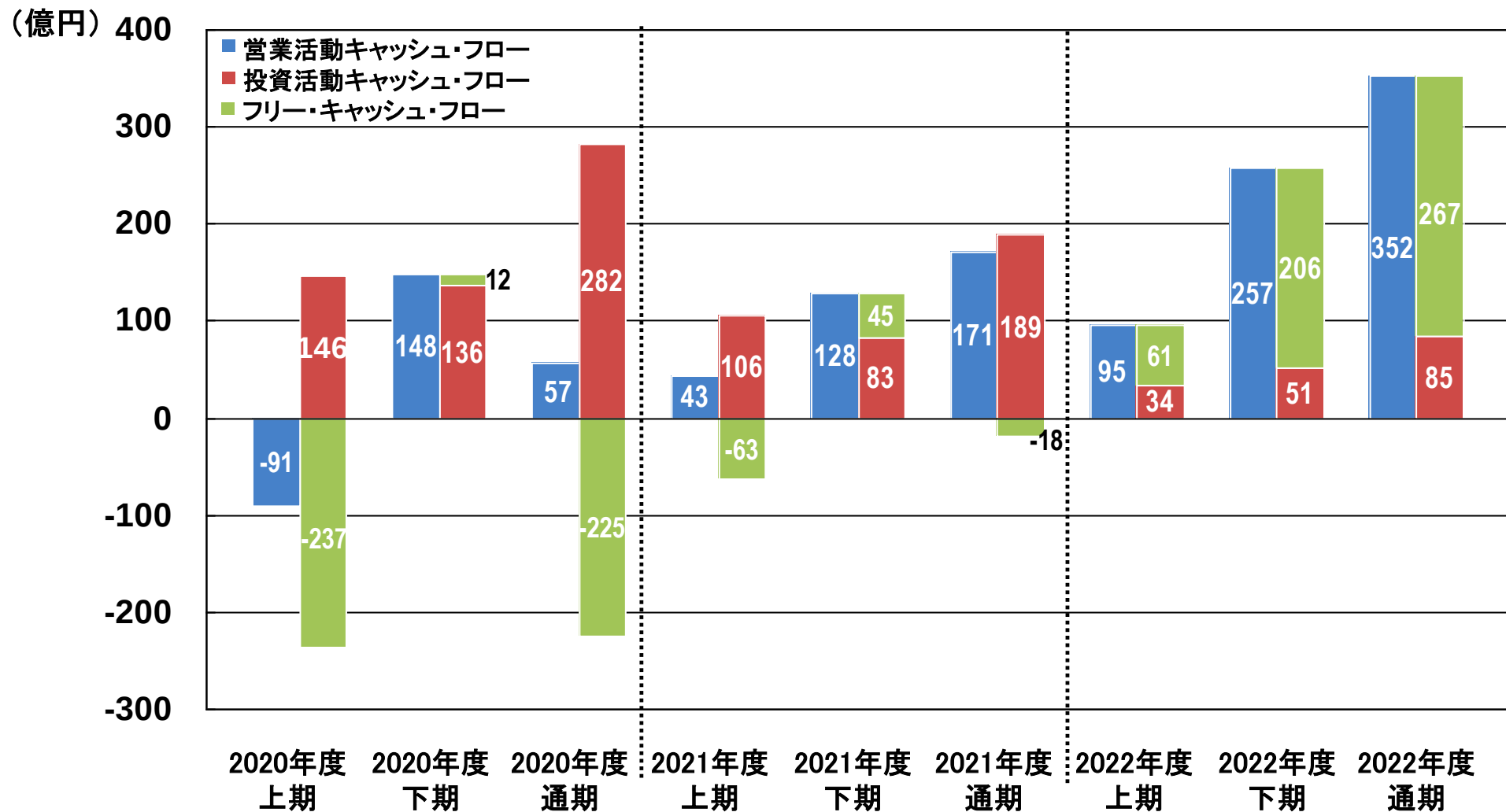
設備投資額・減価償却費推移

- 設備投資額は、前年度に対して87億円減少（計画対比 79億円減少）
- 減価償却費は、前年度に対して34億円増加（計画対比 14億円増加）



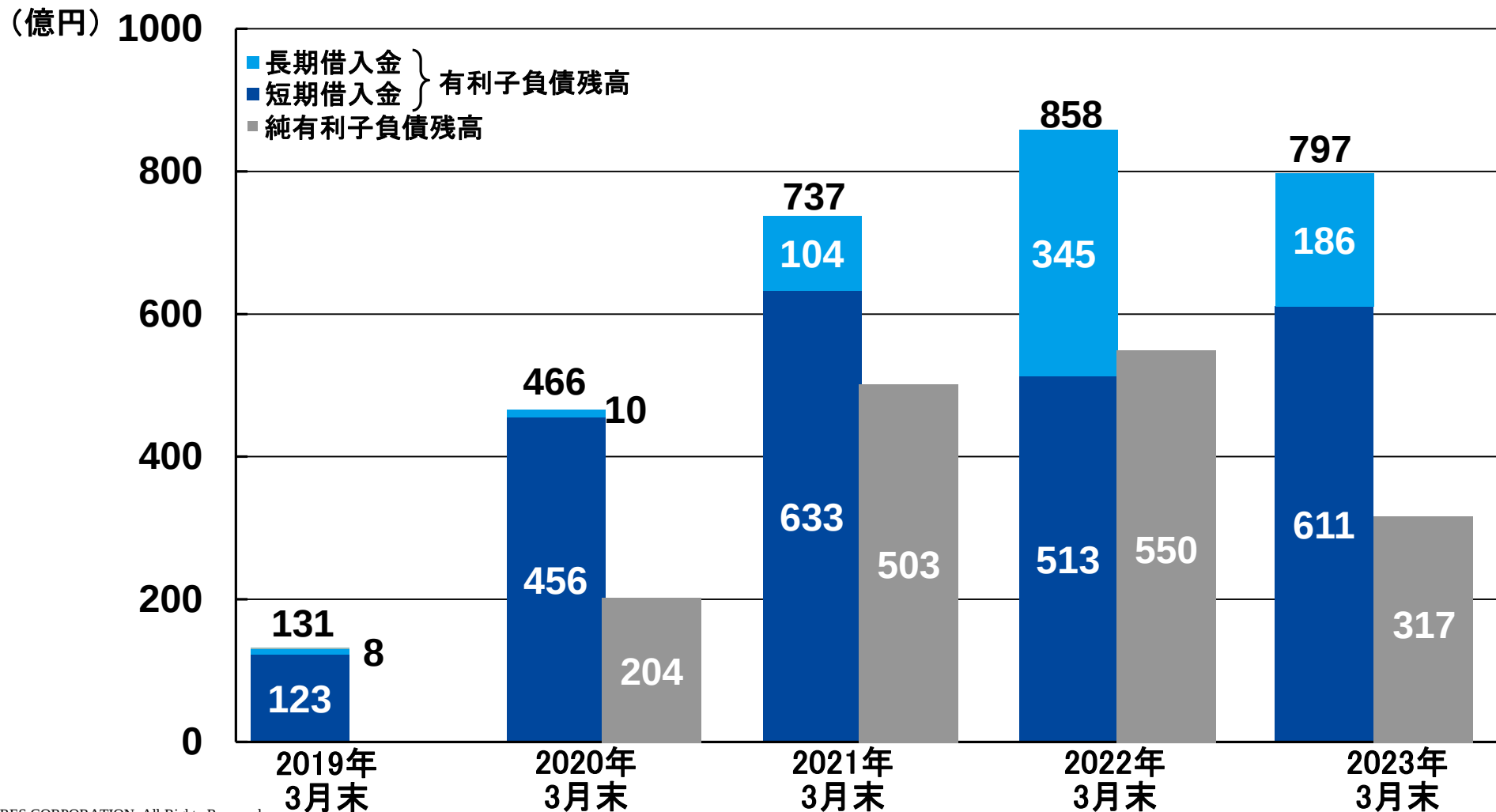
キャッシュ・フローの推移

● フリー・キャッシュ・フローは、大幅に改善し、267億円を確保



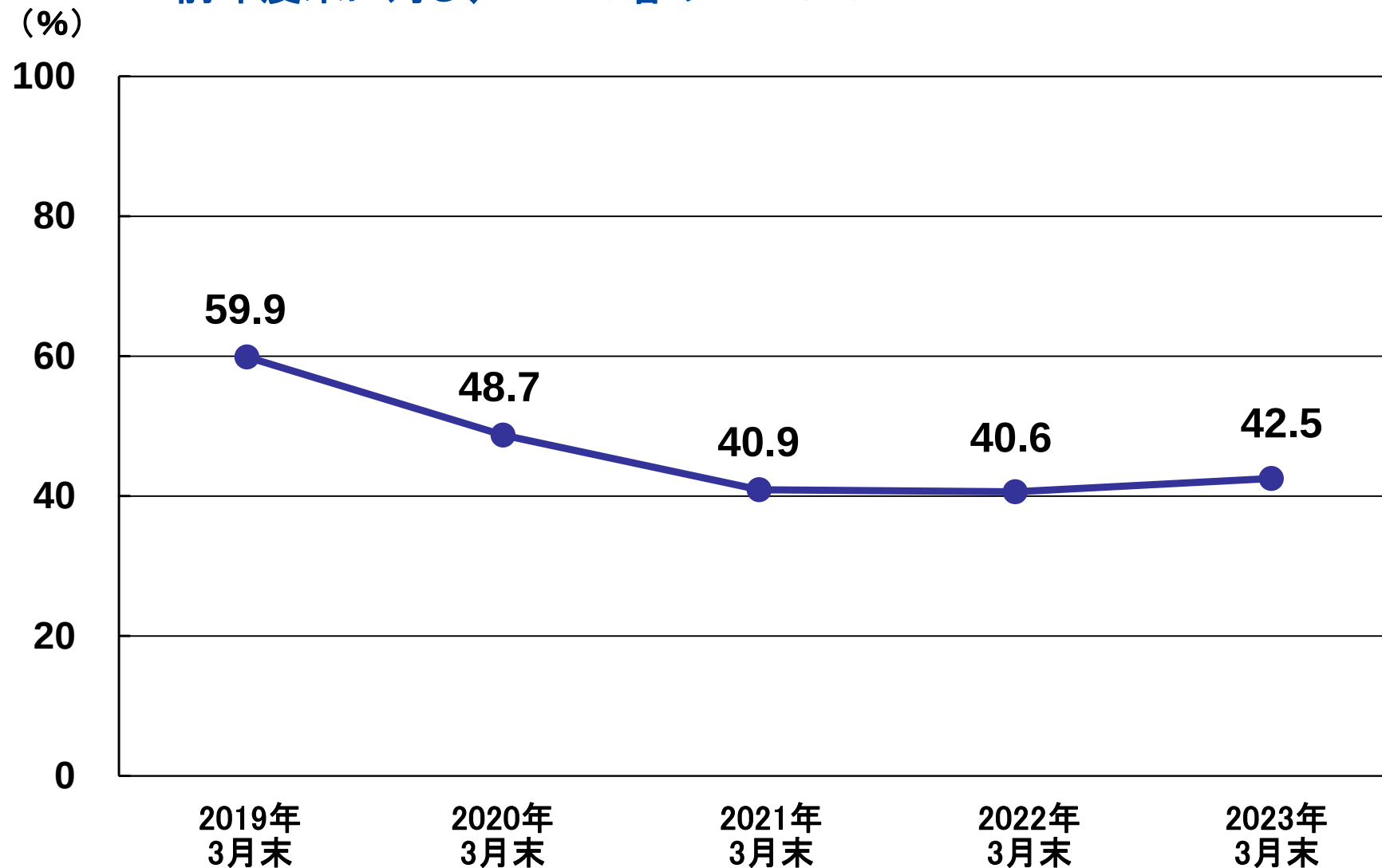
有利子負債・純有利子負債残高の推移

- 有利子負債は、前年度末に対して61億円減少
- 現預金を含めた純有利子負債は、317億円



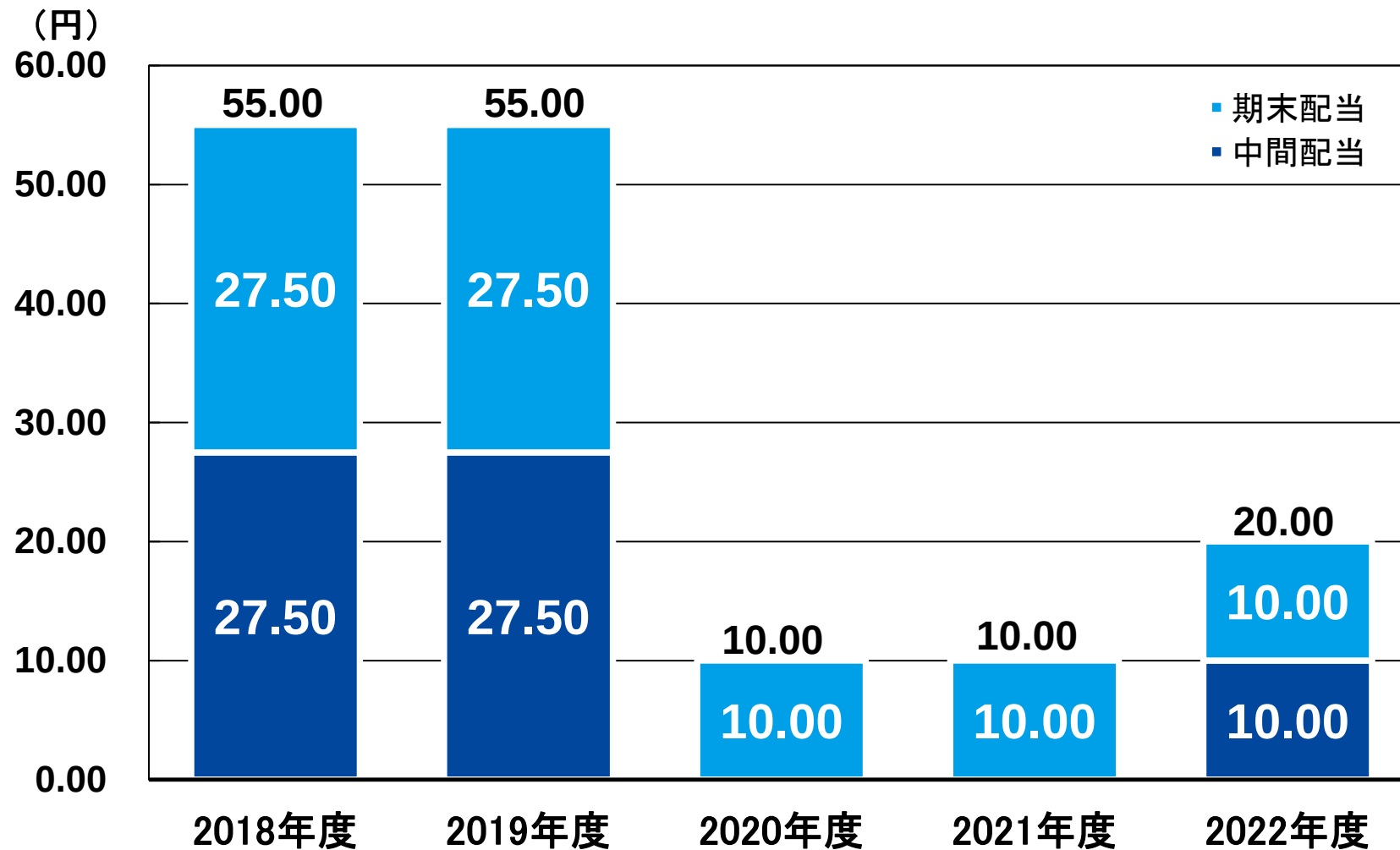
自己資本比率の推移

- 前年度末に対し、1.9%増の42.5%



配当金推移

- 今期の業績が堅調に推移したこと等を踏まえ、1株当たり20円に増配



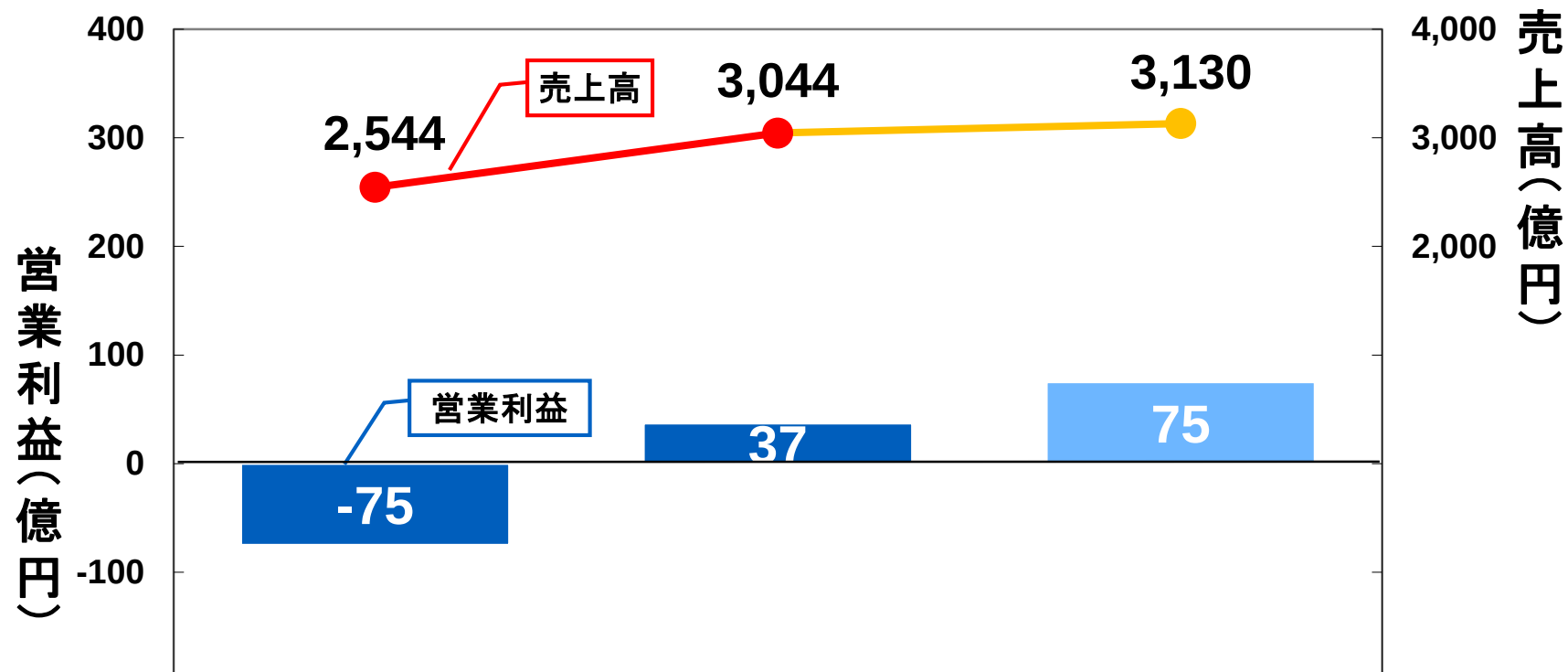


2023年度見通しについて

1. 売上高は、半導体供給不足やエネルギー価格の高騰等の不安定要素は残るものの、新型コロナウイルスによる影響は縮小傾向にあり、得意先からの受注は今後回復することを見込み増収

2. 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により増益見込み

2023年度連結業績見通しサマリー



	21年度	22年度(A)	23年度(B)	(B)-(A)
売上高	2,544	3,044	3,130	+86
営業利益	-75	37	75	+38
経常利益	-47	50	65	+15
親会社株主に帰属する当期純利益	-79	24	29	+5

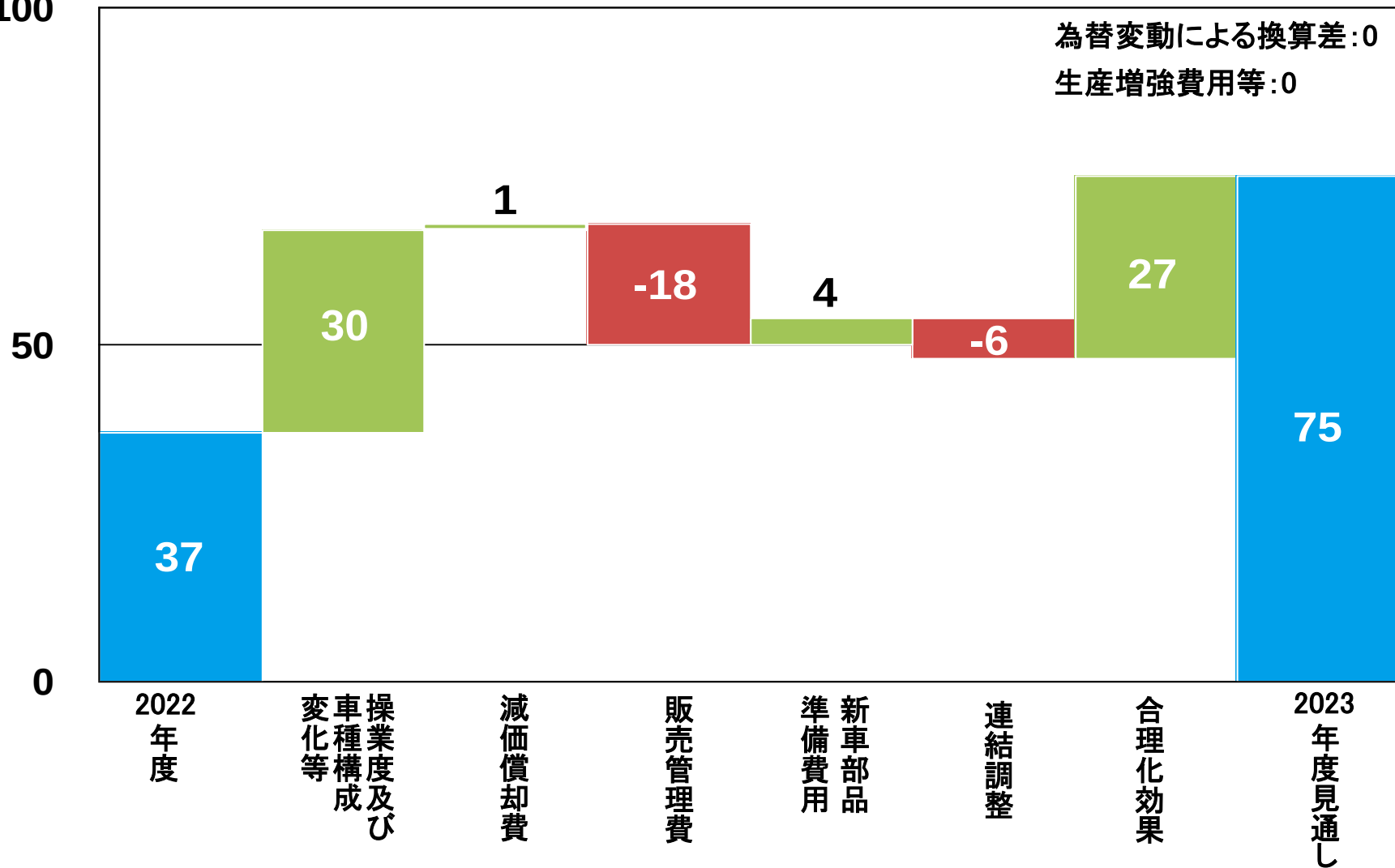
製品群別連結売上構成

(億円)

	2022年度		2023年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス製品	2,650	87.0%	2,725	87.1%	+75	+0.1%
トランスミッション製品	322	10.6%	347	11.1%	+25	+0.5%
樹脂製品	39	1.3%	42	1.3%	+3	0.0%
その他	33	1.1%	16	0.5%	-17	-0.6%
合計	3,044	100%	3,130	100%	+86	—

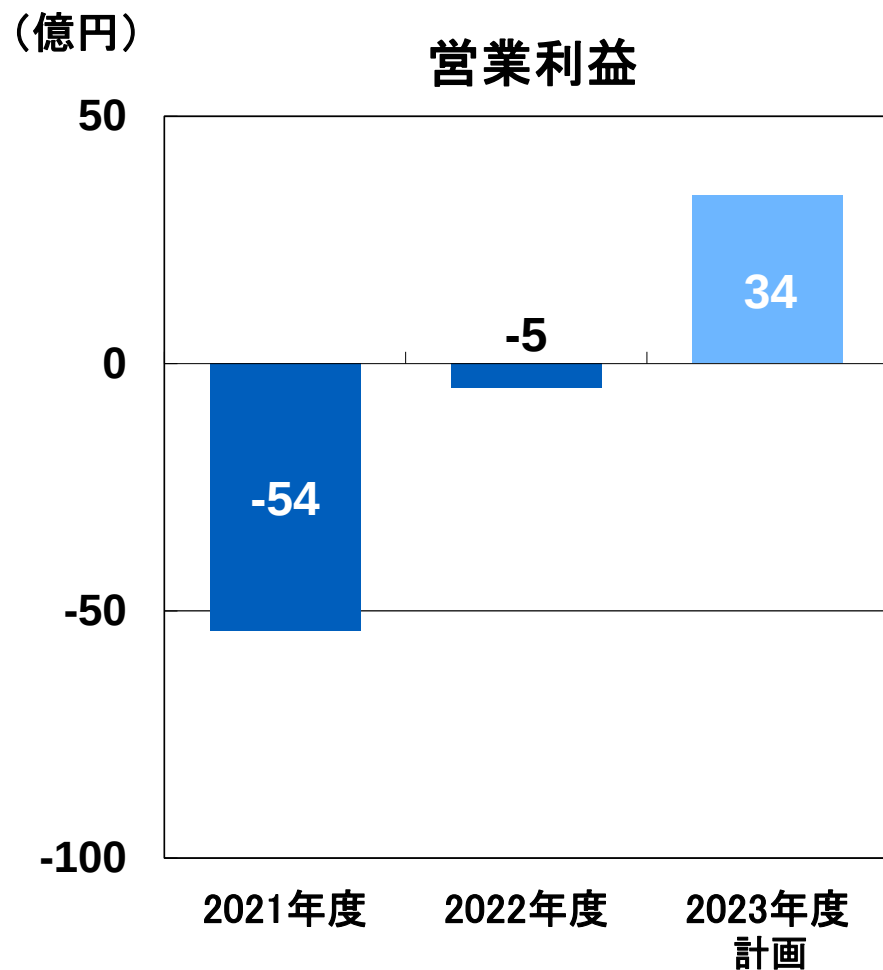
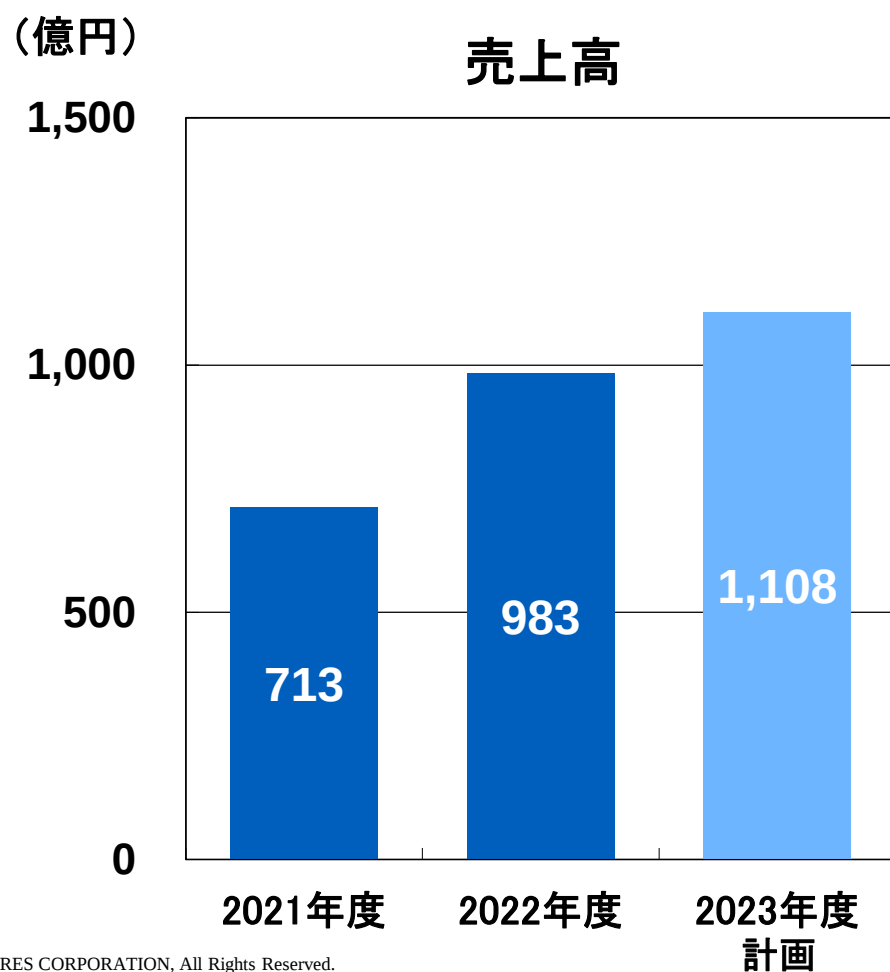
営業利益の増減見通し

(億円)
100



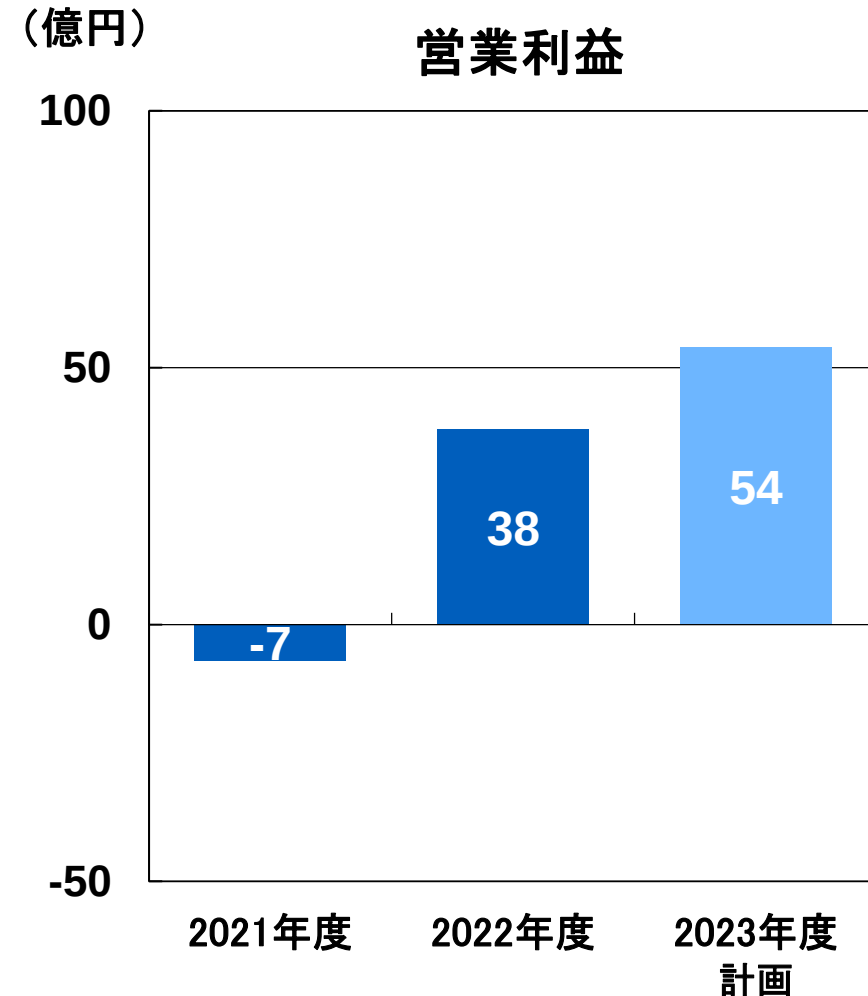
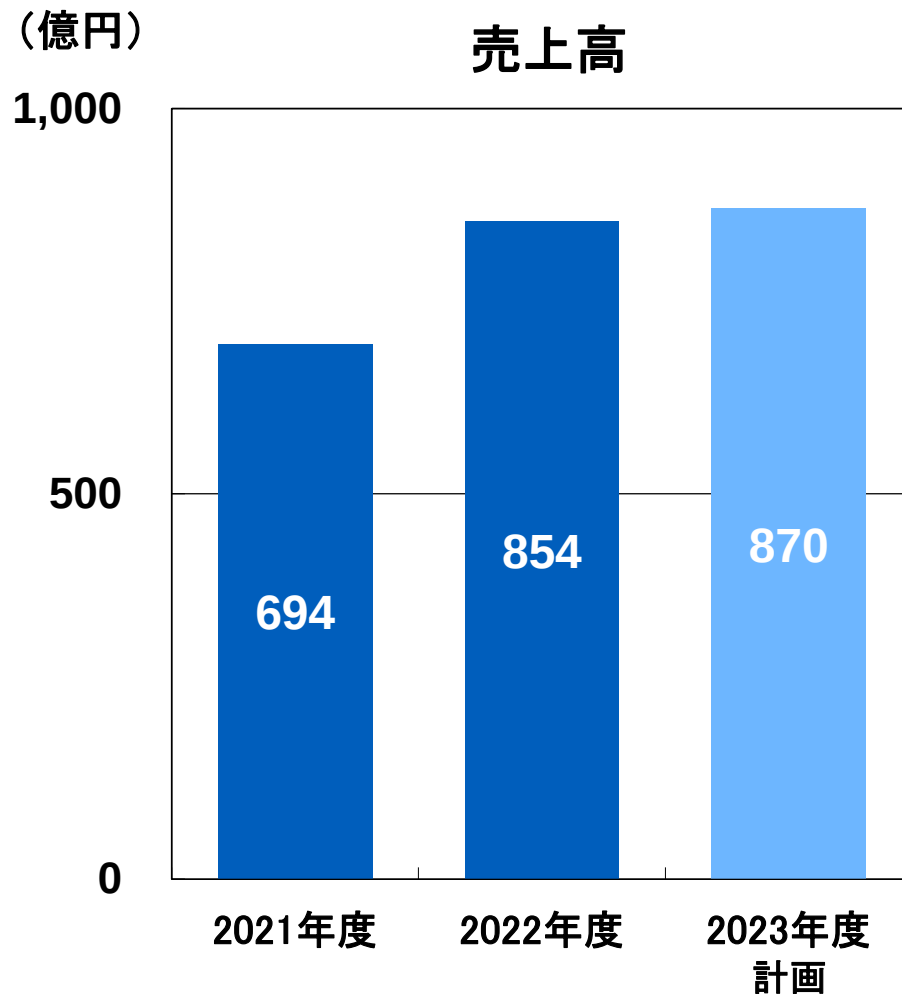
地域別売上高・営業利益(日本)

- 売上高は、得意先の増産影響等により、増収を計画
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、増益を計画



地域別売上高・営業利益(米州)

- 売上高は、得意先の増産影響等により、増収を計画
- 営業利益は、売上増の影響等により、増益を計画

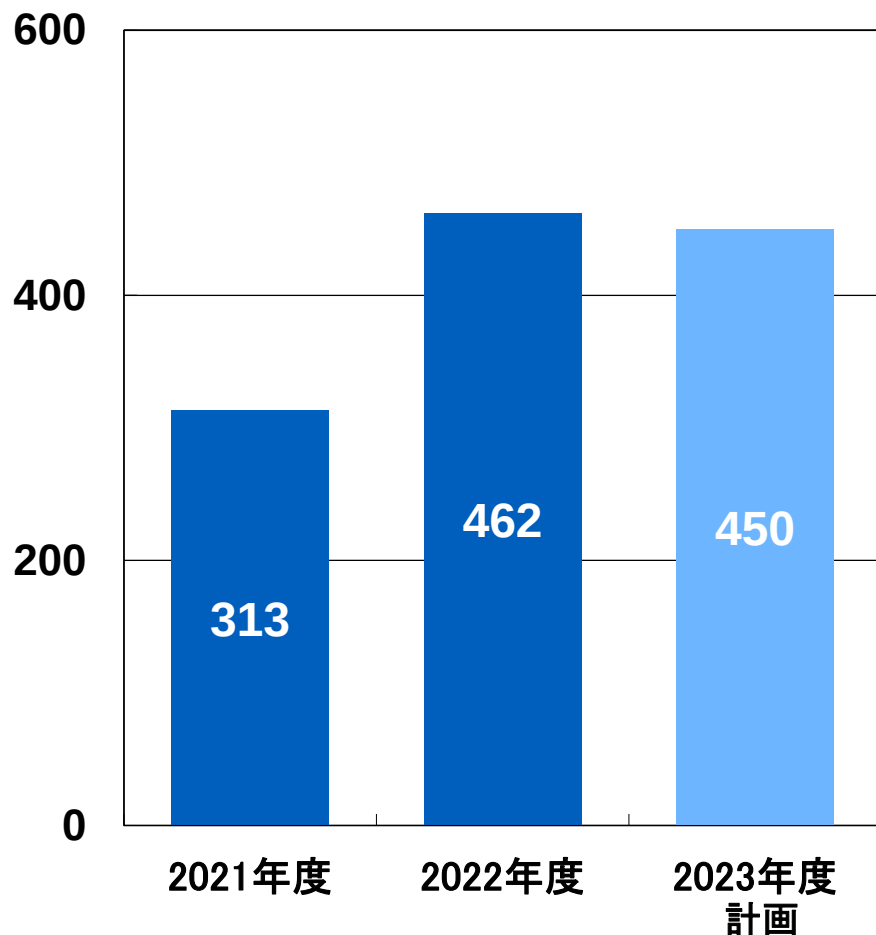


地域別売上高・営業利益(欧州)

- 売上高は、得意先の増産影響はあるものの、金型・設備の販売減少等により、減収を計画
- 営業利益は、合理化効果等により、増益を計画

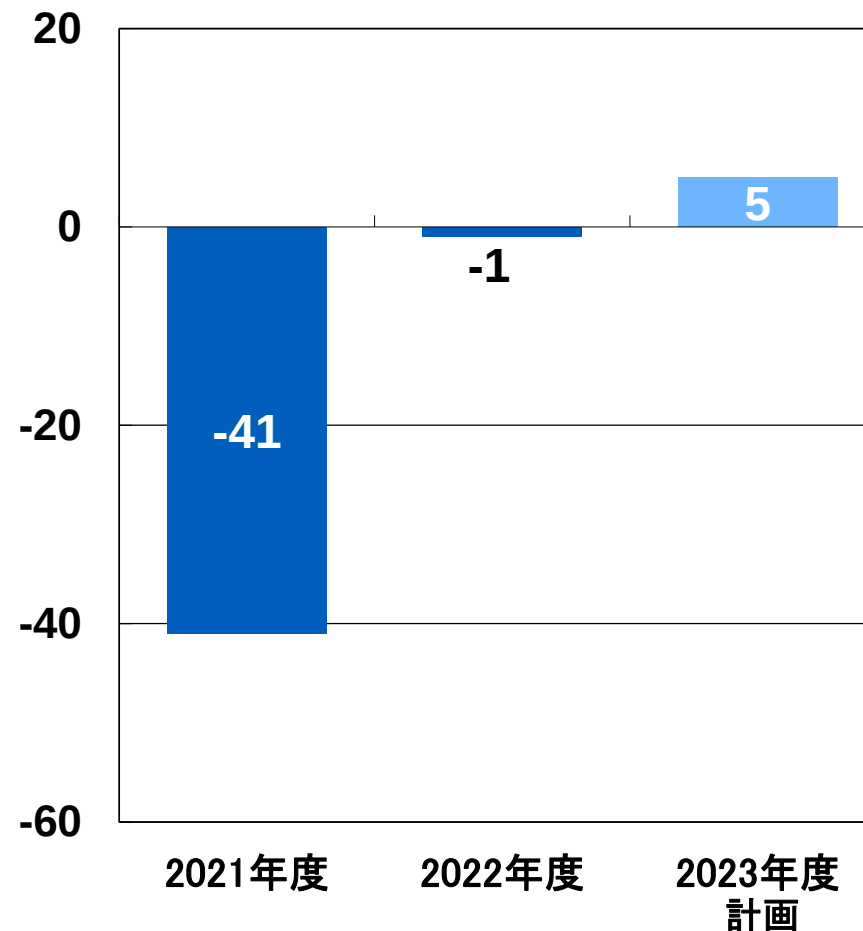
(億円)

売上高



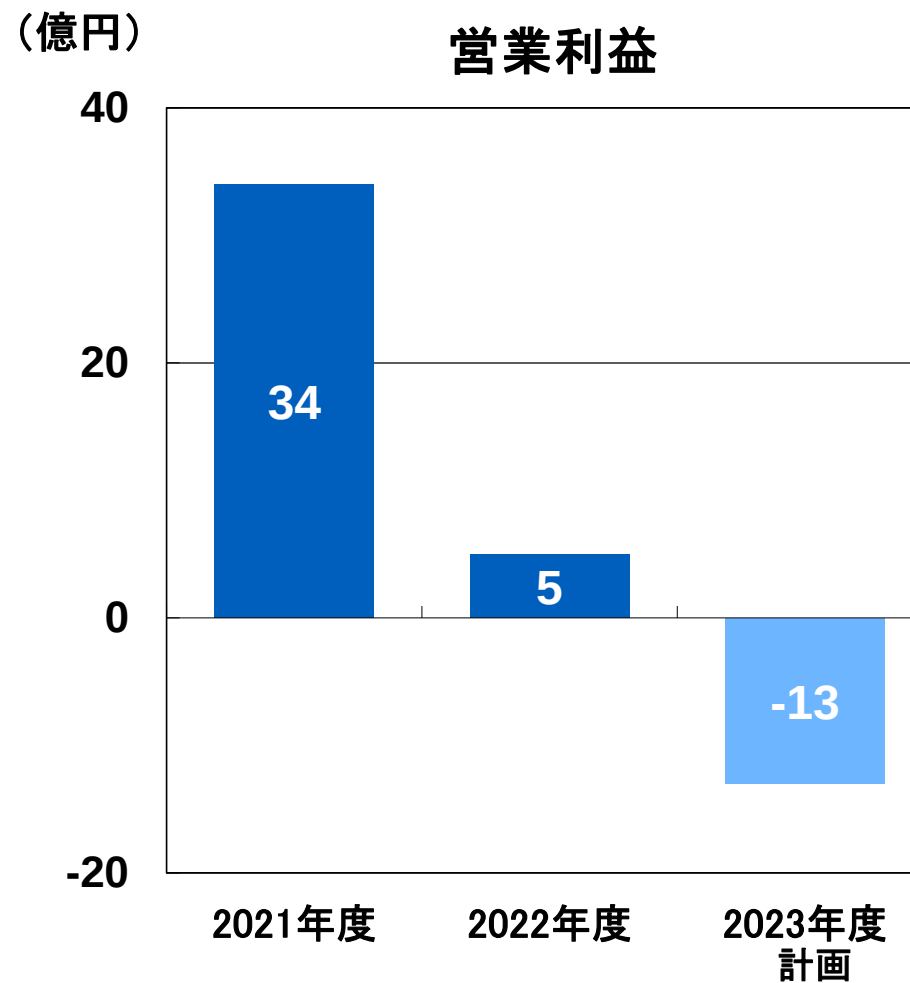
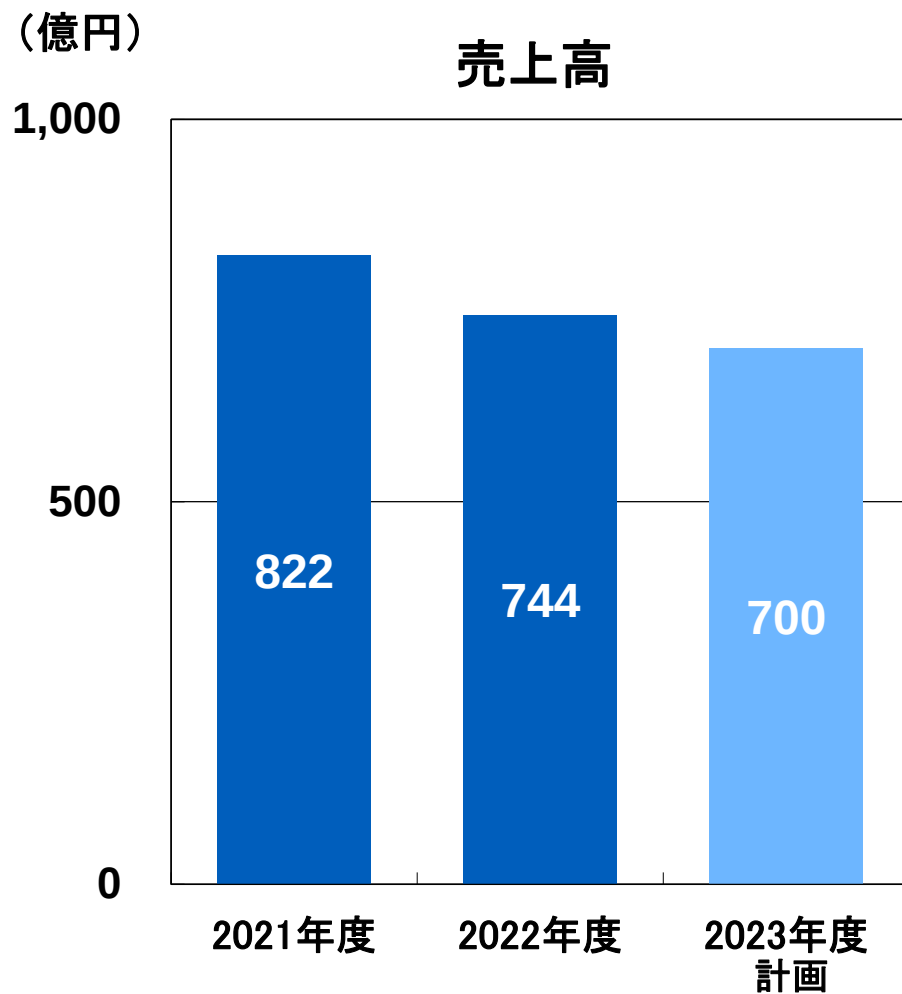
(億円)

営業利益



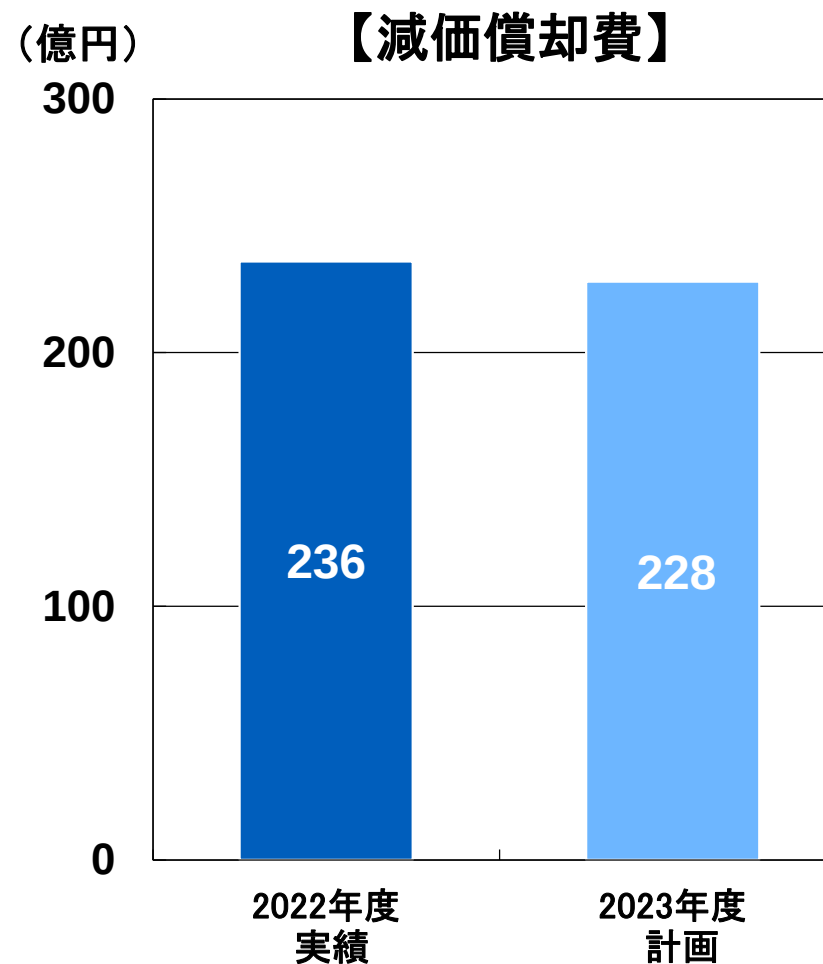
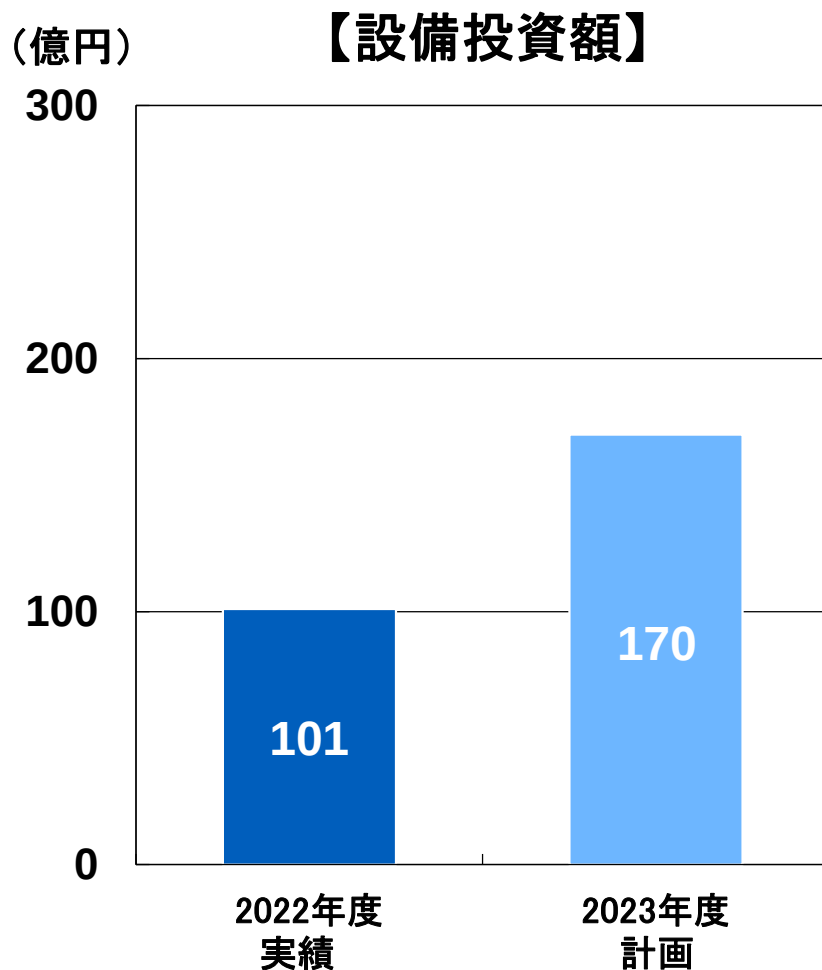
地域別売上高・営業利益(アジア)

- 売上高は、車種構成等により、減収を計画
- 営業利益は、操業度影響等により、減益を計画



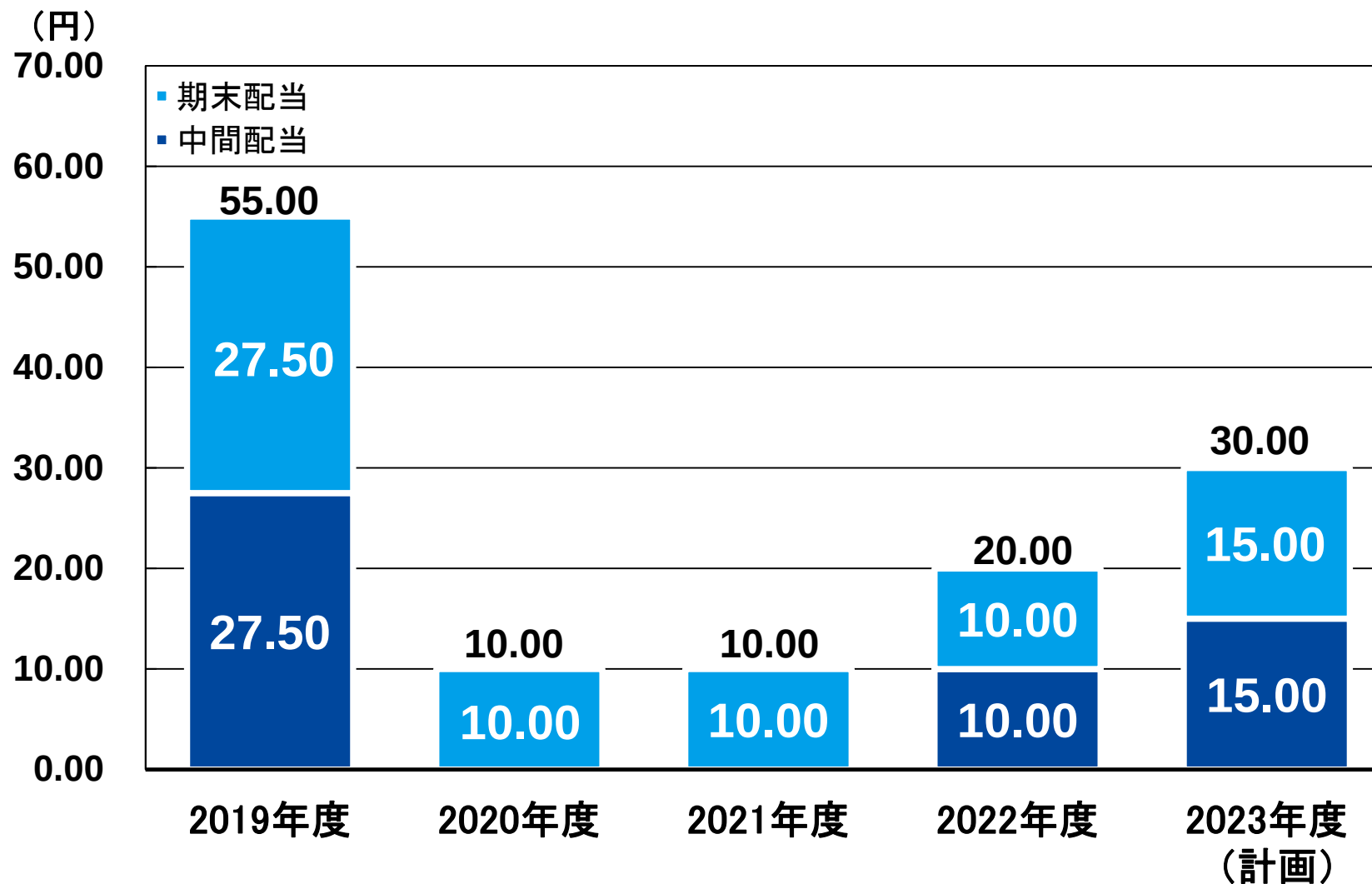
設備投資額・減価償却費計画

- 設備投資額は、前年度比69億円増加
- 減価償却費は、前年度比8億円減少



配当金推移

- 2023年度は1株当たり30円を計画





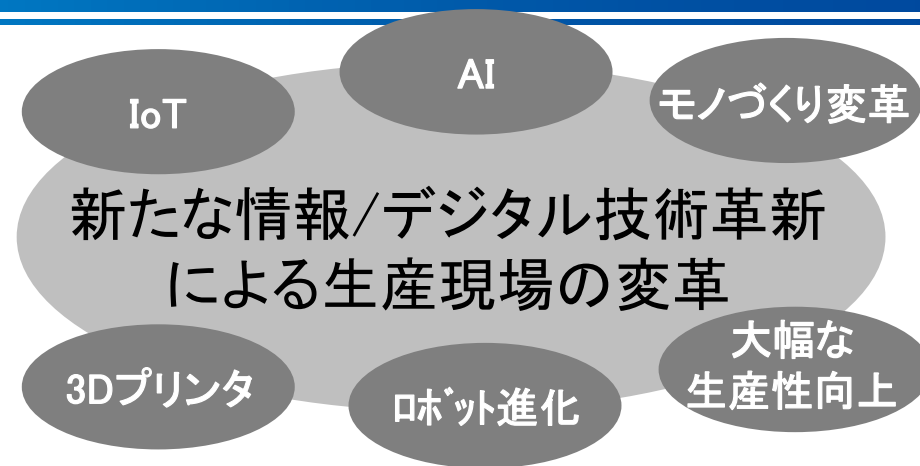
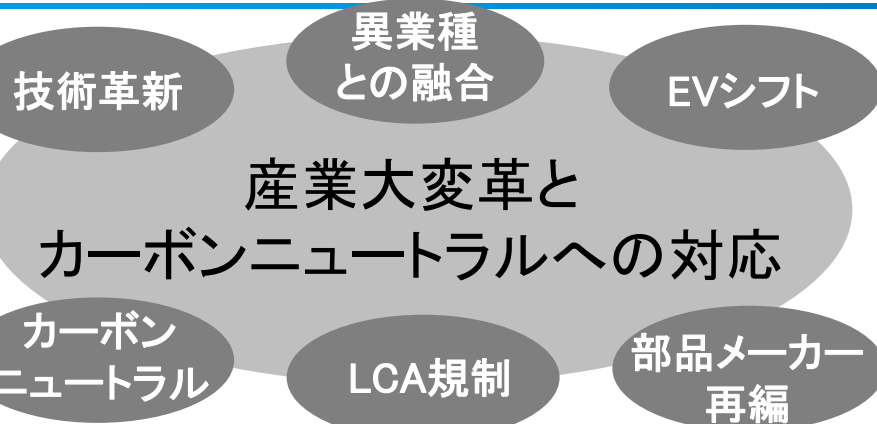
中期経営方針

<ユニプレスグループ企業理念体系>



3つの重要な経営課題

自動車産業
を取り巻く
環境変化



強み

お客様の「何とかしたい」を叶える『**解決型ビジネス風土**』と
「任せて良かった」に応える『**付加価値提案力**』

3つの重要な
経営課題

電動化への 対応加速

- ・戦略的技術開発の加速
- ・グローバル拡販の推進

業界トップレベルの 収益力実現

- ・連結・単体の収益力再強化
- ・品質の向上
- ・スマート工場の実現
- ・製品開発力・生産技術開発力の強化

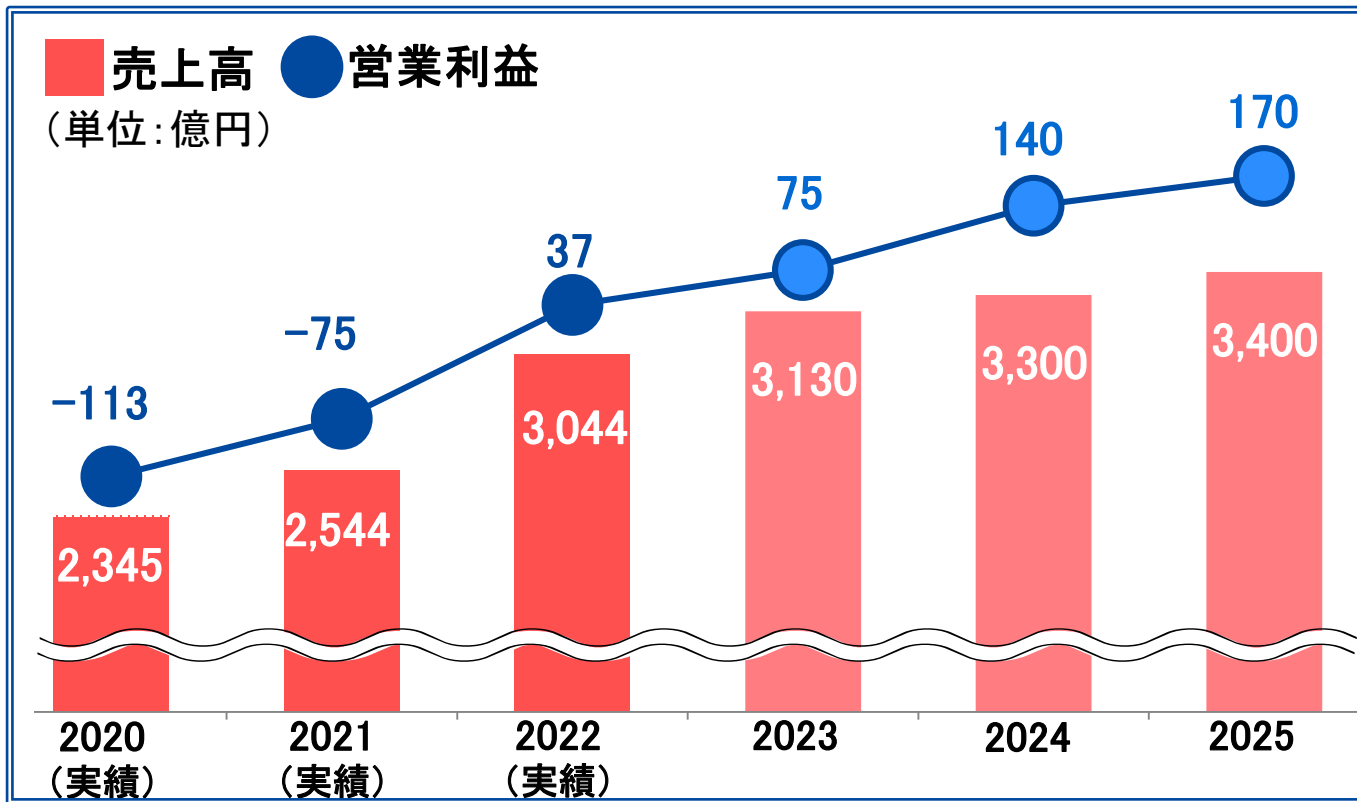
サステナビリティ 経営の推進

- ・ESGの取り組み拡充とガバナンス体制の強化
- ・カーボンニュートラルへの対応

2023-2025年度 中期経営方針 定量目標

経営指標

	2025年度
売上高	3,400億円
営業利益	170億円
売上高 営業利益率	5.0%
ROE	約8%



設備投資額

・2023年度～2025年度: 3年間で約450億円(電動車対応、省人化投資等)

研究開発費

・売上高比約2%

中期的にROE8%以上を目標に掲げ、PBRの改善を目指す

収益性の向上

ステークホルダーとの コミュニケーション強化

- 半導体供給不足・新型コロナウイルスによる収益低迷からの脱却
- プレス技術の更なる進化とスマート化の推進による競争力向上
- 電動車の拡大に向けた製品開発および拡販
- IR・SR活動の更なる充実

<重点施策>

● 配当

財務の安定性を維持した上、収益改善に応じて増配
(配当性向・DOEも意識)

● 自己株式の取得・消却

資本効率向上のため、積極的に検討し機動的に実施



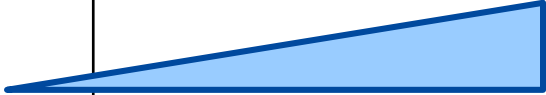
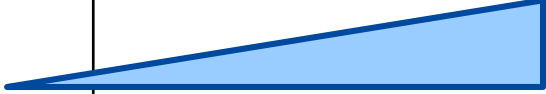
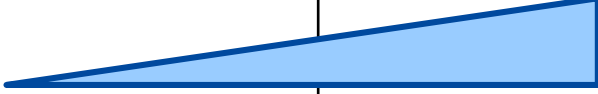
1. 電動化への対応加速



(1) 戦略的技術開発の加速

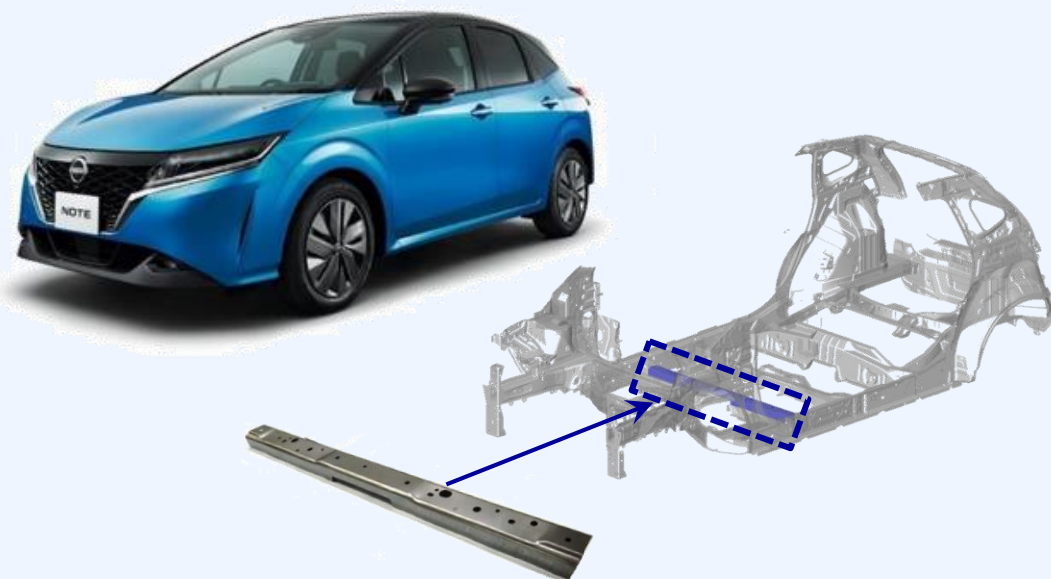
電動化に伴う商品開発の方向性

- バッテリーによる重量増、衝突性能の更なる強化に対応した軽量化技術開発
- 電動車パワートレイン用部品参入のための部品・システム開発

	主要取組み	実現時期	
		～25年度	～30年度
軽量化	① スチール部品の更なる高強度化		
	② アルミ部品対応力強化		
	③ 車体構造最適化検討体制構築		
	④ 樹脂部品の多機能化		
電動車 パワートレイン	電装品、駆動部品のプレス化		
	システム開発		

- 冷間1.5GPaハイテン材 日産ノートの下屋骨格部品へ日産初採用
- 更なる適用部品拡大に向けた技術開発を推進中

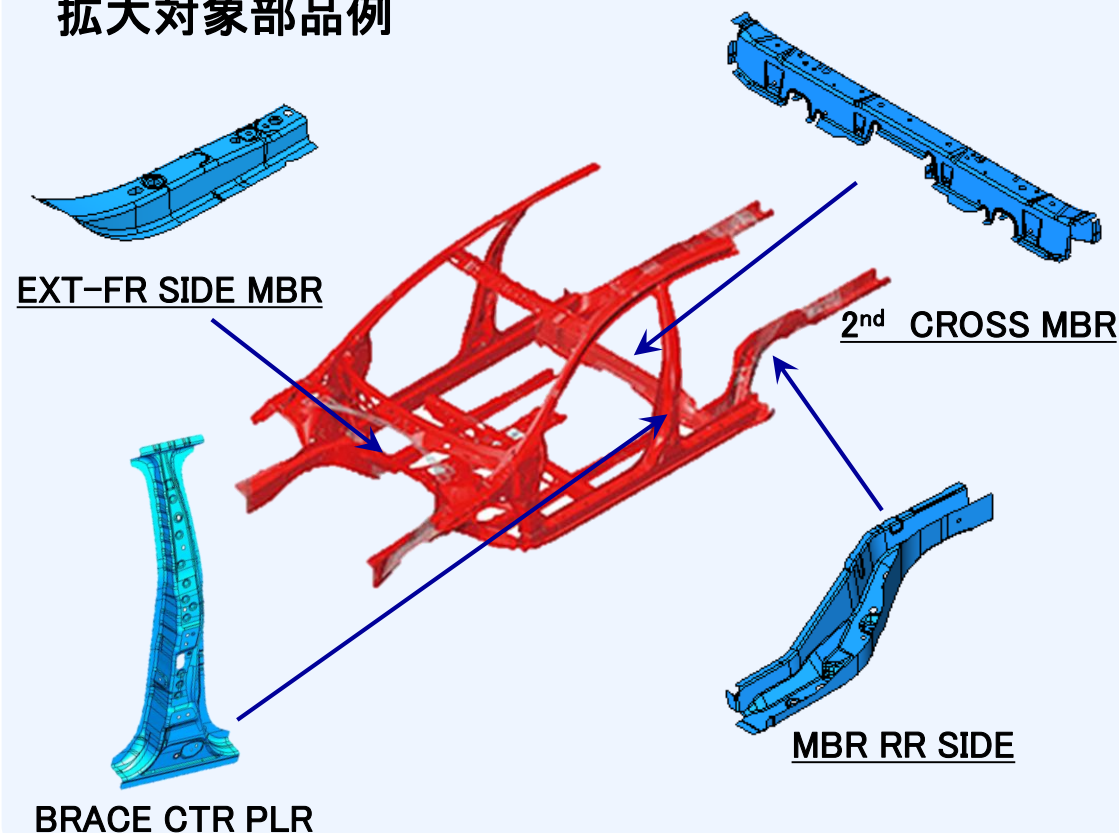
<日産 新型ノート(2020年型)> 当社受注部品 (栃木工場にて量産化)



セカンドクロスメンバーレインフォース

- 材料強度:1.5GPa 板厚:1.2mm
- e-POWERのバッテリーを保護する下屋骨格部品

<1.2~1.5GPa材の適用部品拡大> 拡大対象部品例

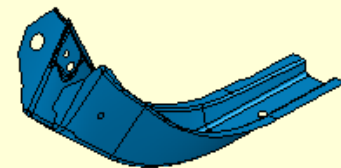


軽量化・・・①スチール部品の更なる高強度化(ホットスタンプ材)

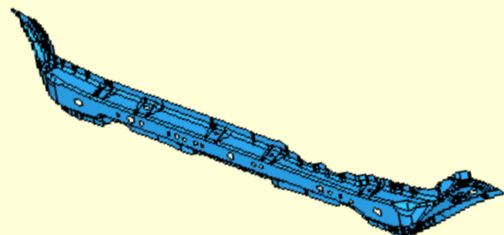
- 2GPa材の量産適用開発技術は完了⇒新車への適用提案開始
- 独自の部分軟化技術開発も完了⇒適用範囲の拡大に向けた技術開発を継続

<2GPa材適用部品拡大>

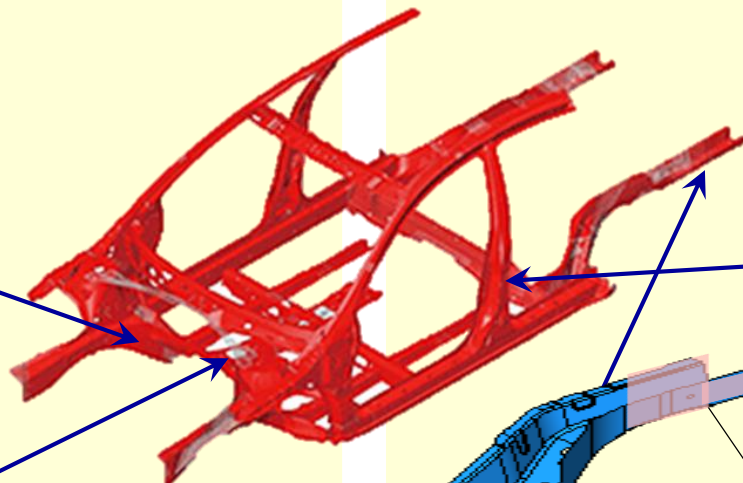
更なる車体軽量化ソリューションの提供



FR SIDE MBR

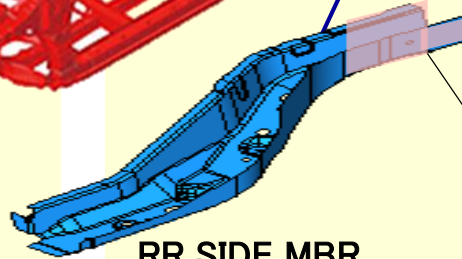


DASH LWR CROSS



<部分軟化技術開発と適用部品拡大>

部品統合などの付加価値提供



RR SIDE MBR



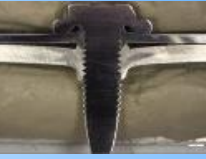
BRACE CTR PLR

軟化部

★衝突モードコントロールへの活用

部品内の強度分け方法として、他に、TWB(HOT、COLD)、TRB、パッチワークなどがあるが、すでに技術開発は完了

- 基本要素技術構築はほぼ完了
- ダイカスト・押出部品も考慮した組立技術の構築を進め、量産体制検討への移行を図る

	現在	25年度	～30年度
プレス	成形・解析技術構築 プレス生産ライン 設備仕様検討		量産プレスラインの確立
組立	接合技術構築 ダイカスト・押出部品 の組立技術構築 組立生産ライン 設備仕様検討    SPOT SPR FDS  接着剤		量産組立ラインの確立

軽量化・③車体構造最適化検討体制構築

得意先構想段階において、車体性能を満足する最適構造提案を可能とする体制を構築

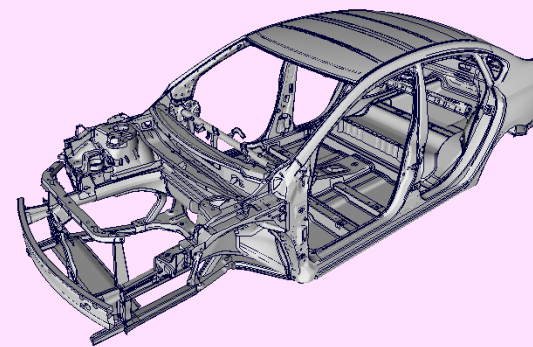
得意先開発フェーズ	構想	設計	試作・量産
新サイクル活動	新たに実施 先行サイクル活動	※サイクル活動	試作開発 量産準備

※サイクル活動：得意先の設計段階での提案活動

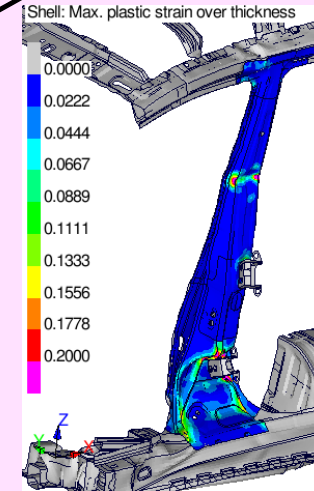
提案内容	設計段階の サイクル活動	構想段階からの 先行サイクル活動
軽量化(材料)	○	○
成形性(工法)	○	○
コスト(歩留・生産性)	○	○
車体性能(衝突・剛性)	—	○

車体性能評価に裏付けられた最適な構造を提案

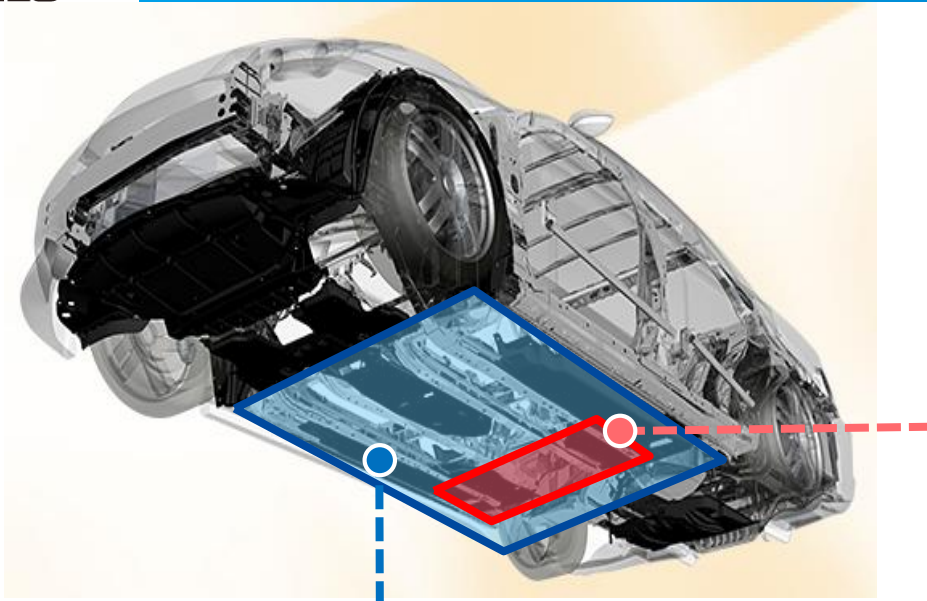
＜車体/部品の衝突解析＞



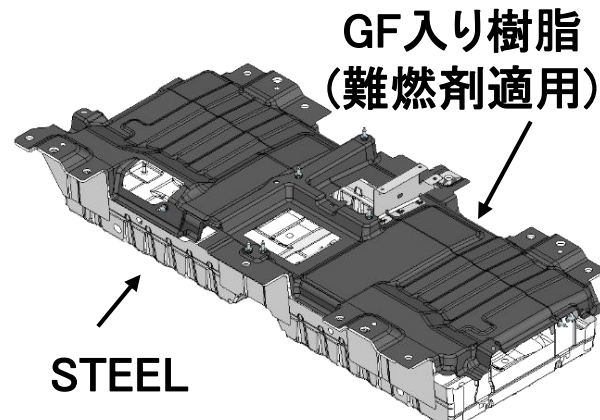
衝突時のセンターピラーの変形



軽量化・・・④樹脂部品が多機能化



樹脂製バッテリーカバー：軽量化

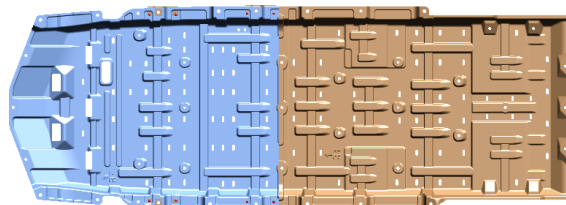


<開発のポイント>

- ①樹脂化による軽量化
- ②難燃性の向上

大型フロアカバー：空力性能向上

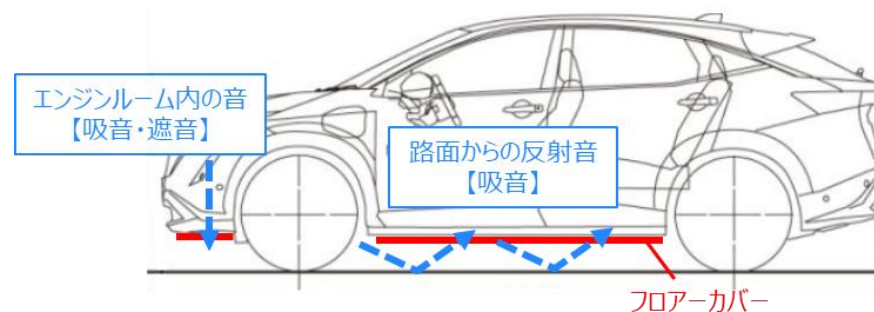
当社USS工法によるコストダウン、軽量化の実現



採用事例：日産 サクラ／三菱 ekクロスEV

更なる付加価値の付与：吸音・遮音

フロアカバー類への吸音・遮音機能付与による高付加価値化の開発着手

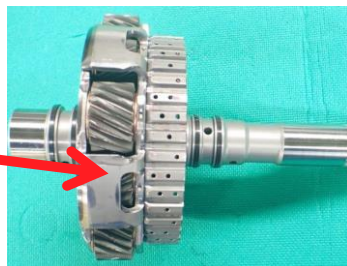


精密プレス技術を活かした軽量化、機能向上アイテムの開発を実施中

電装品、駆動部品のプレス化

キャリア・ドラム・ハブ

せん断技術進化によるバリレス化



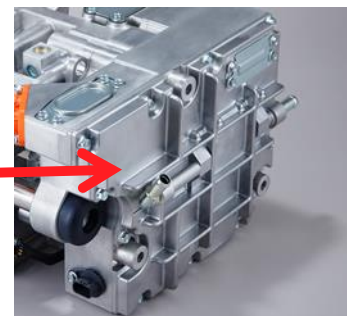
モーターコアエンドプレート

切削加工レス化



インバーターカバー

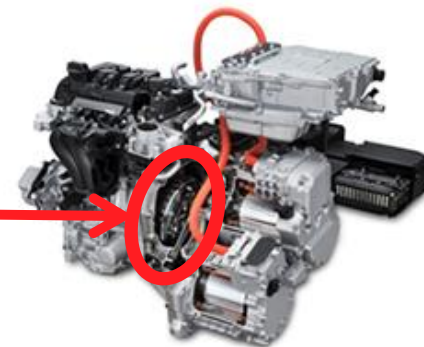
プレス工法への置換



システム開発

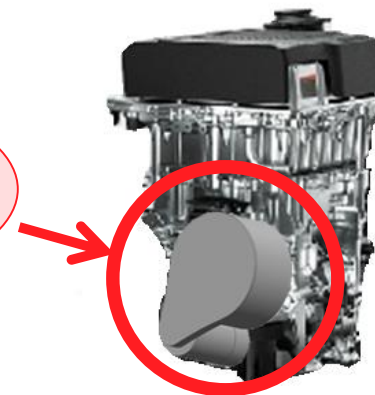
HEV用ダンパー

部品点数低減
(自主開発)



BEV用変速機構

モータ小型化を実現する変速機構
(自主開発)





(2) グローバル拡販の推進

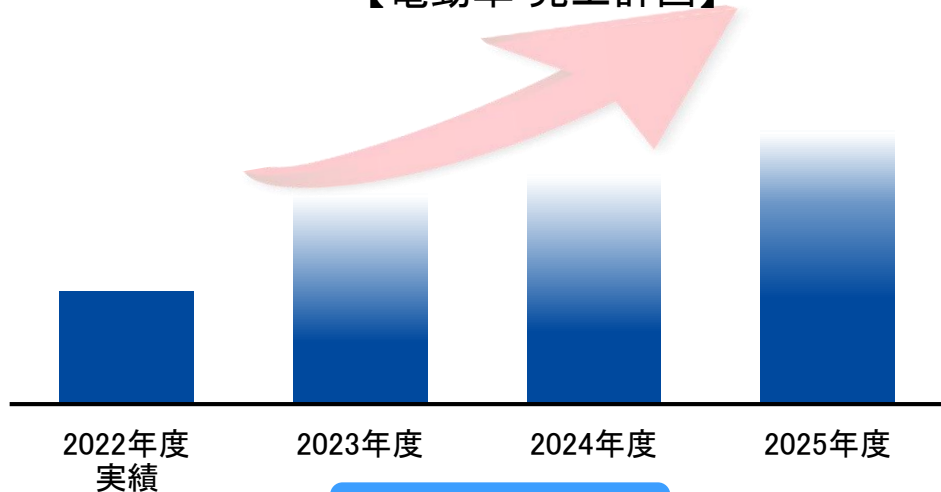
2022年度 新車部品の立上げ実績と今後の見通し

★ : 電動車 ★ : ICE車

		2022	2023	2024	2025
日本		★ ★ ★ ★ ★	★ ★	★ ★ ★	★ ★ ★
米州		★ ★	★	★ ★ ★ ★	★ ★
欧州		★ ★	★	★ ★	★ ★ ★ ★
アジア	中国	★ ★ ★	★ ★	★	★
	タイ・インド・ インドネシア	★ ★ ★ ★ ★	★ ★	—	★ ★ ★ ★
計		17	8	10	14

ハイテン・ホットスタンプ比率の高い電動車のグローバルでの受注拡大に伴い、売上も拡大

【電動車 売上計画】



EV・HEV(日産)



e-Power



EV・HEV・PHEV(日産除く)

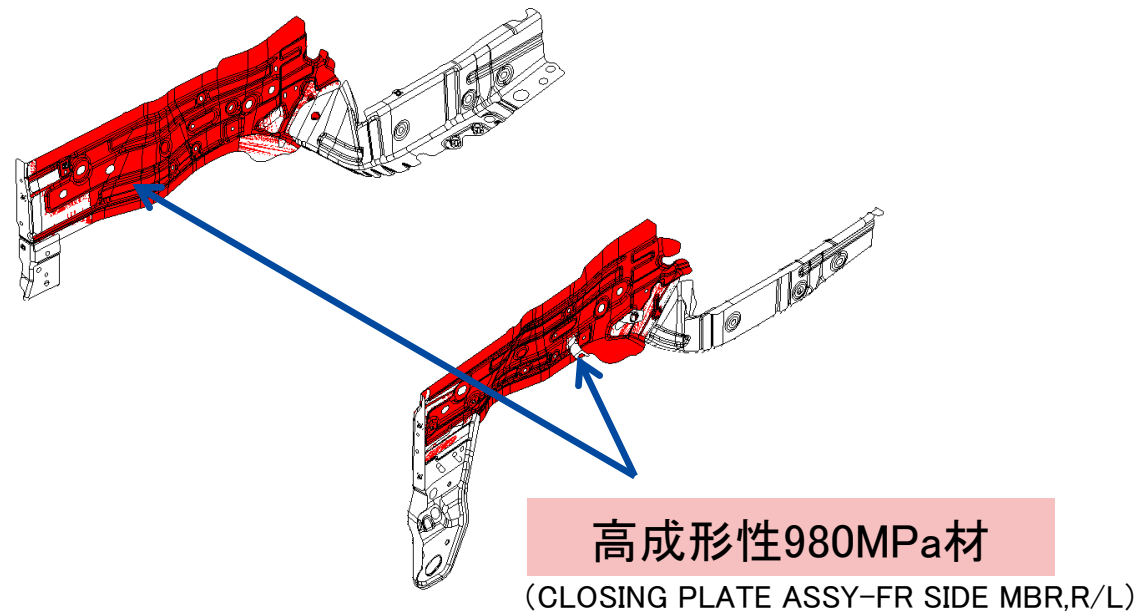


電動車向け部品の新規受注状況

- 新型セレナe-POWERを受注し、23年1月より生産開始
- 国内で初めて高成形性980MPa材を下屋部品に採用
(高剛性でありながら、車体軽量化に貢献)



日産「新型セレナ e-Power」



コモンモジュールファミリーCセグメント車 受注状況

ルノー・日産・三菱 共通プラットフォーム車向け部品をグローバルに受注し、更に拡大

赤字: 22年度、生産開始した車種

イギリス

(ルノー/日産)

- 「キャッシュカイ (ICE/e-POWER)」
- 「メガーヌ E-TECH (EV)」

中国

(日産)

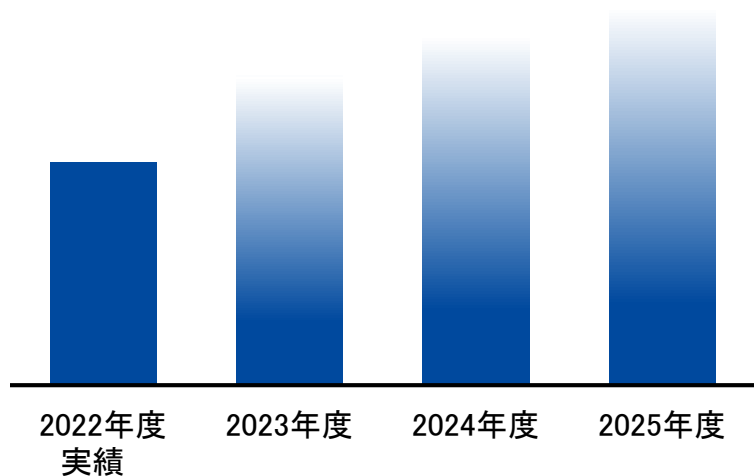
- 「エクストレイル (ICE/e-POWER)」
- 「アリア (EV)」
- 「アウトランダー (ICE)」

アメリカ

(日産)

- 「ローグ (ICE)」

【Cセグメント車 売上計画】



日本

(日産/三菱)

- 「ローグ (ICE)」(北米向け)
- 「エクストレイル (e-POWER)」(日本向け)
- 「エクストレイル (ICE/e-POWER)」(欧州向け)
- 「アリア (EV)」
- 「アウトランダー (ICE/PHEV)」



「エクストレイル e-POWER」

新規取引先への拡販状況

同業サプライヤーからの受注により、取引のなかった
カーメーカーや拠点への拡販につなげた

赤字:22年度、生産開始した車種
※()内は、同業サプライヤー名

インド
(Toyotetsu)

- スズキ「ブレッツァ」
- トヨタ「イノーバクリスタ」
- トヨタ「フォーチュナー」



トヨタ「イノーバクリスタ」

インドネシア
(INGRESS(片山工業))

- 現代自動車「クレタ」
- 現代自動車「スターゲイザー」



トヨタ「フォーチュナー」

アメリカ
(キーレックス)

- マツダ「CX-50」



現代自動車「スターゲイザー」

新規取引先への拡販状況

- 積極的な拡販活動により、新たなカーメーカーとの取引が決定
- 生産開始に向け準備中



Jaguar Land Rover



Jaguar Land Rover



上海蔚来汽車 (NIO)



上海蔚来汽車

トランスミッション部品事業の拡販状況

- マツダのICE車に加え、HEV向けの部品を新たに受注
- EV向けも拡販活動中

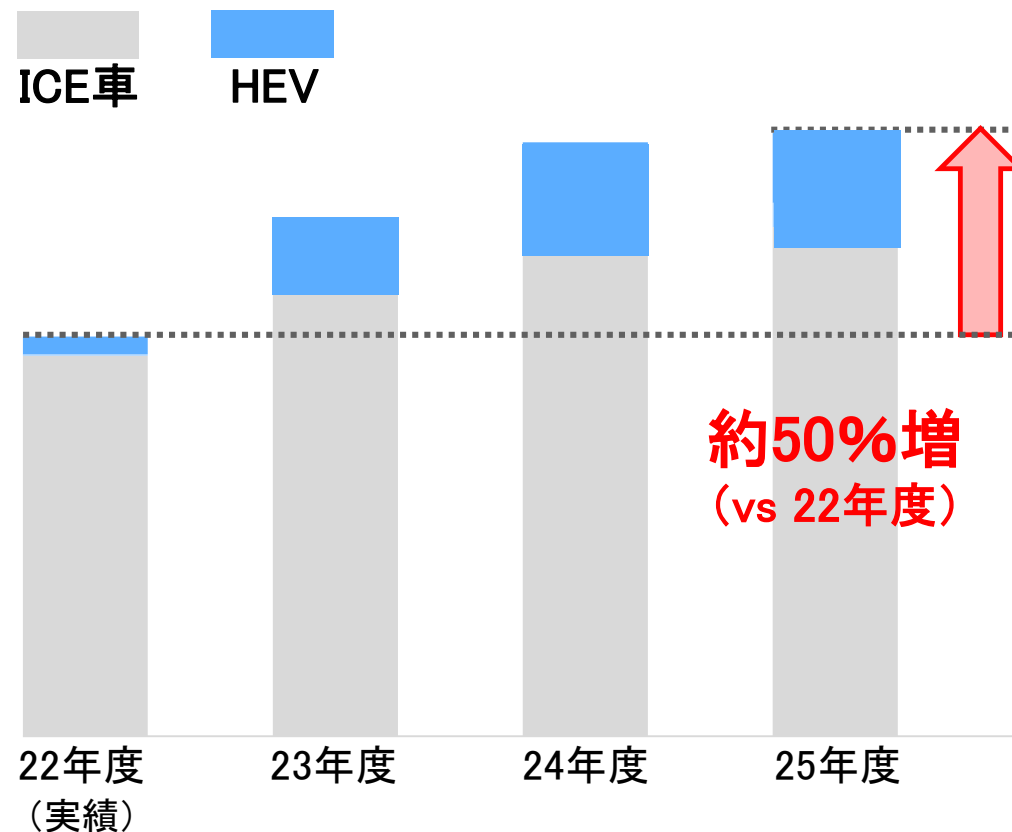
マツダ動向



<TM事業受注部品>



<TM事業マツダ向け売上計画>





2. 業界トップレベルの収益力実現

「最少人数で運営する工場」+「止まらない工場」の実現

省人化・無人化

- ・ライン作業の自動化
- ・搬送、検査、段取り作業の自動化
- ・生産計画、在庫管理の自動化
- ・発注業務の自動化

稼働率向上

- ・点検業務の自動化
- ・故障からの最速復旧
- ・予知保全

良品率・生産性向上

- ・不良品削減による歩留向上
- ・生産速度の最大化

ロボット化

データ収集・
管理

センシング
モニタリング

AI活用

自律制御

スマート工場実現への取り組み状況

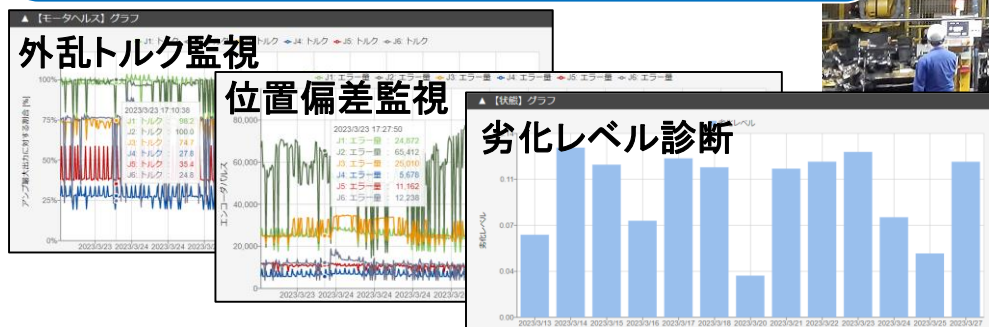
＜栃木工場（栃木インサイト）で実証中の組立ライン取り組み＞



稼働状況と生産進捗の可視化



設備状態監視による 点検自動化・予兆保全



生産実績情報データ
設備機器動作データ
現場情報データ



リモート支援による故障からの最速復旧

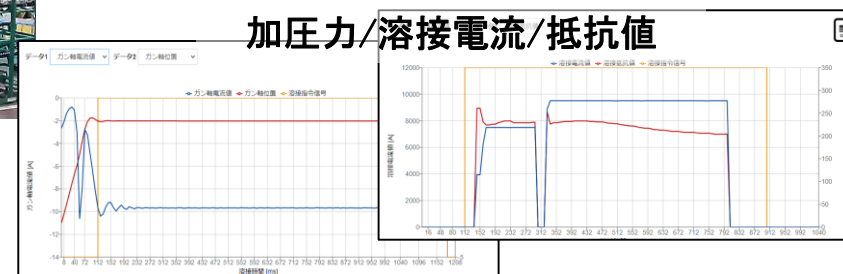
インサイト現場（スマートタブレット）



工場オフィス



溶接全打点データ監視による 溶接検査自動化・溶接時間短縮





3.サステナビリティ経営の推進

マテリアリティおよび中長期目標(2030年度)

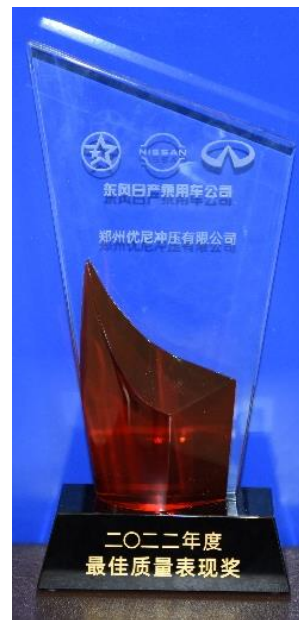
	マテリアリティ	目標・ターゲット
E	気候変動対策	2030年度事業活動で排出するCO ₂ 排出量30%削減(2018年度基点)
	環境貢献製品の開発	<車体プレス部品事業> ・更なる軽量化部品の開発および量産車への採用 <トランスミッション部品事業> ・電動車部品の開発および量産車への採用
	資源の有効活用	産業廃棄物リサイクル率70%以上〔ユニプレス/ユニプレス技術研究所〕
S	製品品質向上	納入不良ゼロ
	人権尊重	重大な人権侵害ゼロ
	ダイバーシティの推進	①女性管理職の比率拡大(7%)〔ユニプレス/ユニプレス技術研究所〕 ②海外拠点の上級管理職における現地従業員の比率拡大(60%)〔海外〕
	サプライチェーン・マネジメント	【持続可能な調達の推進】環境・社会に関する高リスクサプライヤーゼロ
G	コーポレート・ガバナンスの強化	①取締役会の実効性向上に向けた施策の継続的な実施 ②重大な法令違反ゼロ ③重大な腐敗防止方針違反ゼロ

車体部品事業・トランスミッション部品事業において、品質や技術等に関する賞を受賞

<2022年度 得意先からの受賞歴>

受賞拠点	授与得意先	賞名
グローバル ユニプレス	日産自動車	Global Quality Award
	ジャトコ	グローバル特別賞
ユニプレス日本	日産自動車	優良品質感謝状
	三菱自動車工業	コスト優秀賞
ユニプレスアメリカ	北米日産	Safe Launch Award
ユニプレスメキシコ	米州日産グループ	Regional After Sales Award
ユニプレス広州	東風日産	ベスト品質表現賞
	日産中国	物流技術貢献賞
ユニプレス鄭州	東風日産	最優秀品質表現賞
ユニプレス精密 広州	アイシン中国	原価改善優秀賞
	ジャトコ広州	特別賞
ユニプレスインド	RENAULT NISSAN MITSUBISHI	Best Performance Award

日産自動車「Global Quality Award」



左: 東風日産
「最優秀品質表現賞」

右: RENAULT NISSAN
MITSUBISHI
「Best Performance Award」

ESG投資に関する代表的な株価指数である「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に2年連続選定されました。(組入開始:2021年12月)

<FTSE Blossom Japan Index とは>

- ・世界でも有数の歴史を持つFTSE Russell※が開発した株価
- ・ESG評価の絶対評価が高い銘柄をスクリーニングし、最後に業種ウェイトを中立化したESG総合型指数

※FTSE Russellはロンドン証券取引所グループ(LSEG)の完全子会社であり、情報サービス部門を担う。インデックスの構築と管理において、世界をリードする独立企業。



**FTSE Blossom
Japan**

2022年4月に新設された
「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」
の構成銘柄に2年連続選定



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

子育てサポート企業として「くるみん認定」を取得しました

<「くるみん認定」とは>

次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業を「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣が認定する制度



「健康経営優良法人(大規模法人部門)」に3年連続認定されました

<「健康経営優良法人」とは>

特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を
経済産業省と日本健康会議が共同で選定



2023
健康経営優良法人
Health and productivity



「IR情報メール配信サービス」のご案内

ユニプレスの最新情報をメールでお知らせします。ぜひご登録下さい。

スマートフォンから

二次元コードを
読み取って
登録



パソコンから

ユニプレス
WEBサイト
トップページの
バナーをクリック



一覧を見る >> ピックアップ

» 株主総会・配当・株主優待等

» 株価情報

» IR情報メール配信

» お問い合わせ

(円)

	2021年度 通期		2022年度 通期		2023年度 計画見通し
	期中平均	期末	期中平均	期末	
米ドル	113.06	122.41	136.00	133.54	125.00
英ポンド	151.91	155.24	162.07	160.01	154.00
ユーロ	130.36	130.52	138.49	141.44	135.00
ペソ	5.42	5.59	6.60	6.81	6.80
人民元	17.13	18.07	19.50	19.02	18.50
ルピー	1.52	1.62	1.69	1.63	1.55
バーツ	3.44	3.43	3.75	3.82	3.80
ルピア	0.0077	0.0081	0.0088	0.0085	0.0085

資料取り扱い上の注意

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。

あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。

それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 主要市場（日本、米州、欧州、アジア等）の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- ・ 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- ・ 為替相場の大幅な変動
- ・ 金融・資本市場における金利等の変動 など